

甲州市地域医療体制基本計画

2020(令和2)年2月

甲州市

目次

| | |
|------------------------------|----|
| I 計画策定の概要..... | 1 |
| 1 計画策定の背景・目的..... | 1 |
| 2 計画の期間..... | 1 |
| 3 計画策定の方法..... | 1 |
| 4 計画の推進..... | 1 |
| II 地域医療の状況..... | 2 |
| 1 甲州市の人口動態..... | 2 |
| 2 医療の提供状況..... | 5 |
| 3 患者の動向..... | 10 |
| 4 介護の提供状況..... | 20 |
| 5 医療と介護の連携の状況..... | 21 |
| 6 甲州市の医療をとりまく現状と課題..... | 22 |
| III 勝沼病院の状況..... | 23 |
| 1 病院概要..... | 23 |
| 2 診療の状況..... | 24 |
| 3 検診の状況..... | 28 |
| 4 経営状況..... | 31 |
| 5 勝沼病院の現状と課題..... | 33 |
| IV 勝沼病院の目指す姿・期待される役割..... | 35 |
| 1 目指す姿..... | 35 |
| 2 期待される役割..... | 35 |
| V 勝沼病院の基本方針(重点取組)..... | 36 |
| VI 勝沼病院の中長期的な方向性..... | 38 |
| VII 大藤診療所の状況..... | 39 |
| 1 診療所概要..... | 39 |
| 2 診療の状況..... | 39 |
| 3 経営状況..... | 40 |
| 4 大藤診療所の現状と課題..... | 41 |
| VIII 大藤診療所の目指す姿・期待される役割..... | 44 |
| 1 目指す姿..... | 44 |
| 2 期待される役割..... | 44 |
| IX 大藤診療所の基本方針(重点取組)..... | 45 |
| X 大藤診療所の中長期的な方向性..... | 46 |
| XI 参考資料..... | 47 |

I 計画策定の概要

1 計画策定の背景・目的

急速に少子高齢化が進み、団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題に向かい、医療や介護の需要が大きくなることを見込まれている。そうしたなか、2015(平成27)年3月に総務省から「新公立病院改革ガイドライン」が示され、また、2016(平成28)年5月には山梨県において「山梨県地域医療構想」が示された。市立勝沼病院では2017(平成29)年3月に「甲州市立勝沼病院新改革プラン」を策定し、安定的な地域医療体制の確保に資する方策を検討している。

甲州市において、市民が安心して医療を受けられる環境整備を行うため、地域の医療を取り巻く現状を把握するなか、公的医療機関である「甲州市立勝沼病院」と「甲州市大藤診療所」について、経営の実態と課題を把握するとともに、地域における役割と機能を明らかにし、公立病院が担うべき役割や、今後、超高齢社会を担う医療を支える体制づくりを構築するためこの計画を策定するものである。

2 計画の期間

本計画の計画期間は、2020(令和2)年度から2024(令和6)年度までの5年間とする。計画期間中には、病院の取組状況や市民ニーズ、社会動向の変化を把握しながら、必要な見直しを行う。

3 計画策定の方法

本計画は、市民代表、医療提供者、福祉介護関係者、学識経験者で構成された「甲州市地域医療体制審議会」において、計画に関する意見等の集約を図った。

4 計画の推進

計画の実現に向け、PDCA¹サイクルによる推進ならびに継続的なモニタリングを実施したのもとに、「甲州市地域医療体制審議会」において、協議検討し推進を図っていく。

¹ plan(立案・計画)、do(実施)、check(検証・評価)、action(改善)の頭文字

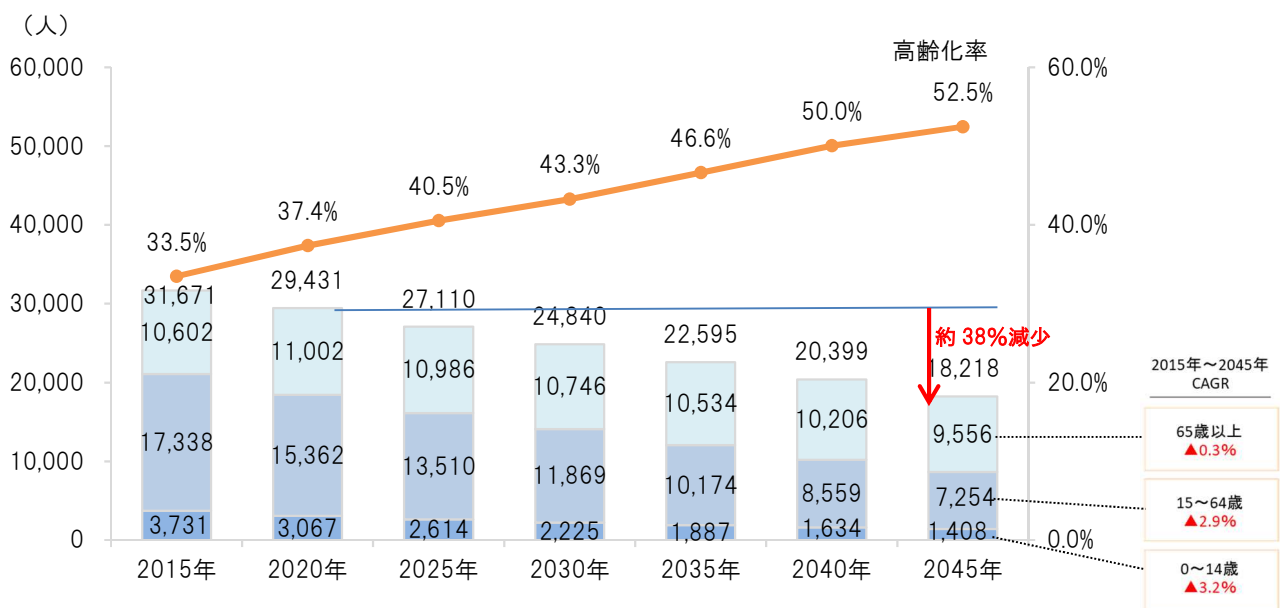
II 地域医療の状況

1 甲州市の人口動態

(1) 推計人口と高齢化率の推計

甲州市の総人口は今後減少が続き、2040(令和22)年以降2万人を割ると予測される。高齢化率は上昇し続け、2040(令和22)年には50%に到達する見込みである。64歳以下の人口は、2015(平成27)年以降は年間3%程度減少していく一方、高齢者人口はそれほど減少せず、2045(令和27)年時点も1万人程度の水準を維持すると予測される。

甲州市の推計人口と高齢化率の推計(男女計)



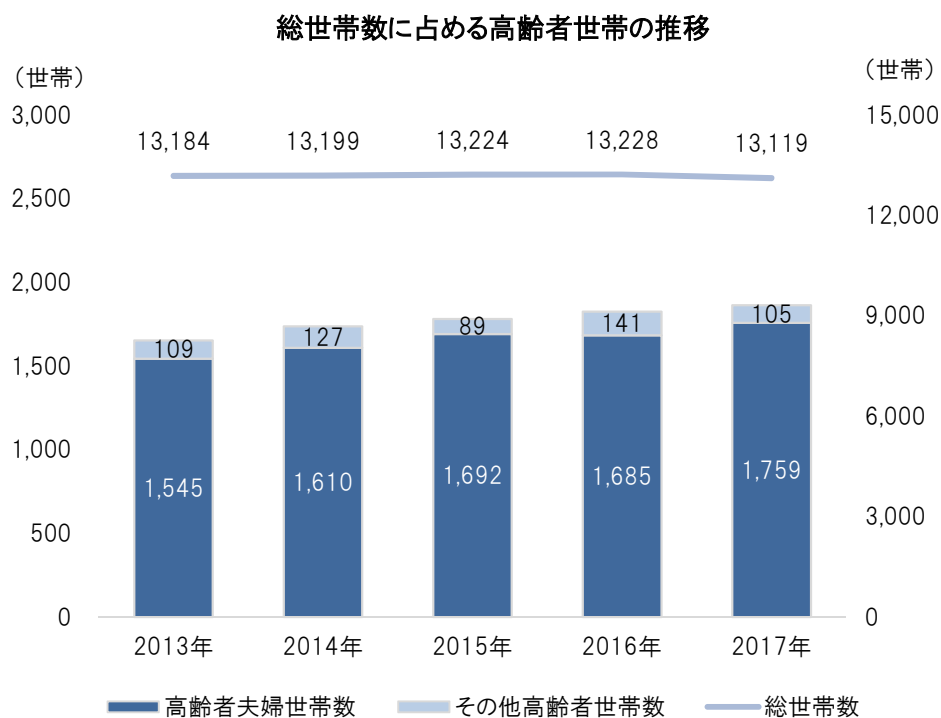
| | 2015年 | 2020年 | 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 | 2045年 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総数(人) | 31,671 | 29,431 | 27,110 | 24,840 | 22,595 | 20,399 | 18,218 |
| 0~14歳(人) | 3,731 | 3,067 | 2,614 | 2,225 | 1,887 | 1,634 | 1,408 |
| 15~64歳(人) | 17,338 | 15,362 | 13,510 | 11,869 | 10,174 | 8,559 | 7,254 |
| 65歳以上(人) | 10,602 | 11,002 | 10,986 | 10,746 | 10,534 | 10,206 | 9,556 |
| 高齢化率(%) | 33.5 | 37.4 | 40.5 | 43.3 | 46.6 | 50.0 | 52.5 |

※2015年度の実績値は国勢調査による

出所:国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)

(2) 高齢者世帯の推移

総世帯数は増加傾向となっているものの、2017(平成29)年には13,119世帯と、2016(平成28)年の13,228世帯から109世帯減少している。一方、高齢者複数世帯と高齢者夫婦世帯はともに増加している。



| | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総世帯数 | 13,184 | 13,199 | 13,224 | 13,228 | 13,119 |
| 高齢者複数世帯数※1 | 1,654 | 1,737 | 1,781 | 1,826 | 1,864 |
| 高齢者夫婦世帯数※2 | 1,545 | 1,610 | 1,692 | 1,685 | 1,759 |
| その他高齢者世帯数※3 | 109 | 127 | 89 | 141 | 105 |

※1 複数の高齢者で構成される世帯(※2+※3)

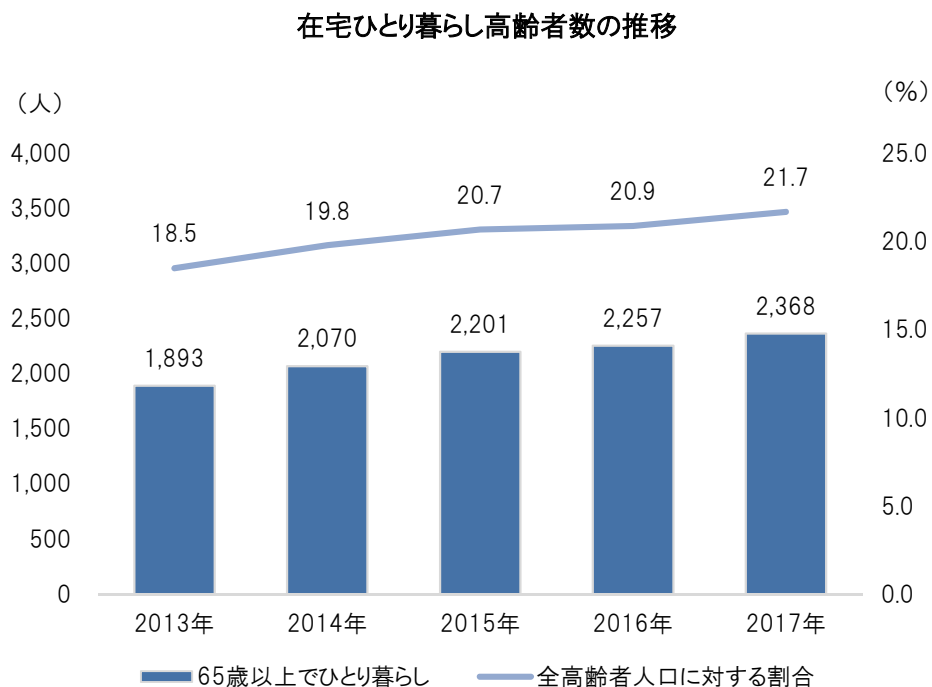
※2 夫婦とも65歳以上の夫婦のみの世帯

※3 すべての世帯構成員が65歳以上の高齢者からなる世帯(高齢者夫婦世帯、一人暮らし高齢者世帯は除く)

出所: 甲州市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画

(3) 在宅ひとり暮らし高齢者数の推移

在宅ひとり暮らし高齢者は年々増加しており、2017(平成29)年には2,368人と、全高齢者人口の21.7%を占めている。



| | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 65歳以上でひとり暮らし(人) | 1,893 | 2,070 | 2,201 | 2,257 | 2,368 |
| 全高齢者人口に対する割合(%) | 18.5 | 19.8 | 20.7 | 20.9 | 21.7 |

出所: 甲州市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画

2 医療の提供状況

(1) 甲州市及び山梨市内の病院の状況

甲州市及び隣接する山梨市内における一般病床を有する病院一覧である。甲州市と山梨市の許可病床数合計は713床となっている。

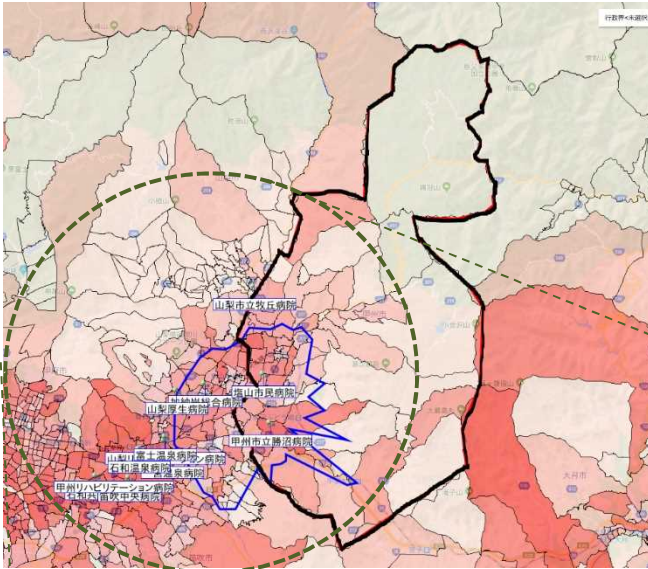
甲州市および山梨市の病院一覧(2019(令和元)年12月時点)

| 所在地 | 病院名 | 許可 病床 | 診療科目 |
|-----|--------------------------|----------|---|
| 甲州市 | 1 甲州市立勝沼病院 | 51 | 内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、婦人科 |
| | 2 公益財団法人 山梨厚生会 塩山市民病院 | 179 | 内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、内分泌内科、糖尿病・代謝内科、漢方内科、腎臓内科、外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、婦人科、泌尿器科、リハビリテーション科 |
| 山梨市 | 1 公益財団法人 山梨厚生会 山梨厚生病院 | 293 | 内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病内科、外科、肛門外科、整形外科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、乳腺外科、皮膚科、泌尿器科、神経内科、精神科、婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線診断科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科 |
| | 2 社会医療法人 加納岩 加納岩総合病院 | 160 | 外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、血管外科、乳腺・甲状腺外科、内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、腎臓内科、消化器内科、神経内科、リウマチ・膠原病内科、泌尿器科、眼科、婦人科、皮膚科、形成外科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科 |
| | 3 山梨市立牧丘病院 | 30 | 内科、小児科、外科、整形外科 |
| 合計 | | 713 | |

出所：各病院ホームページ

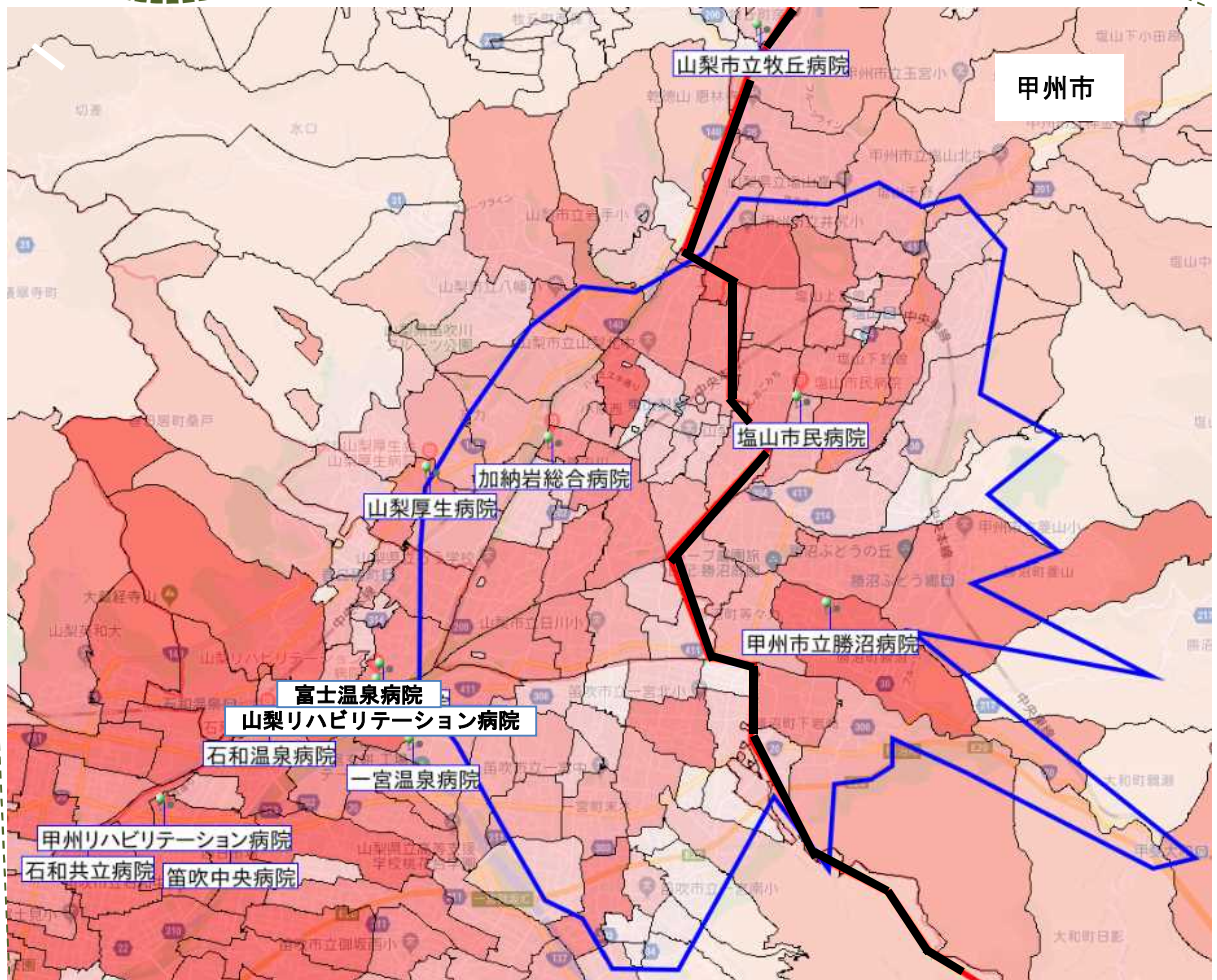
人口が比較的多い地域を中心に病院が設置されている。勝沼病院周辺には病院が少なく、甲州市南部をカバーしていると考えられる。

甲州市の人口分布および病院の配置状況



甲州市全体図

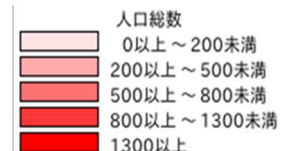
拡大図



出所:総務省「平成27年国勢調査」

青線:勝沼病院から車で10分圏内
(診療圏となりうる地域)

黒線:甲州市 市境



(2) 甲州市内の診療所の状況

甲州市内における診療所一覧である。診療科目は内科、小児科が多い。

甲州市内の診療所一覧(2019(令和元)年6月時点)

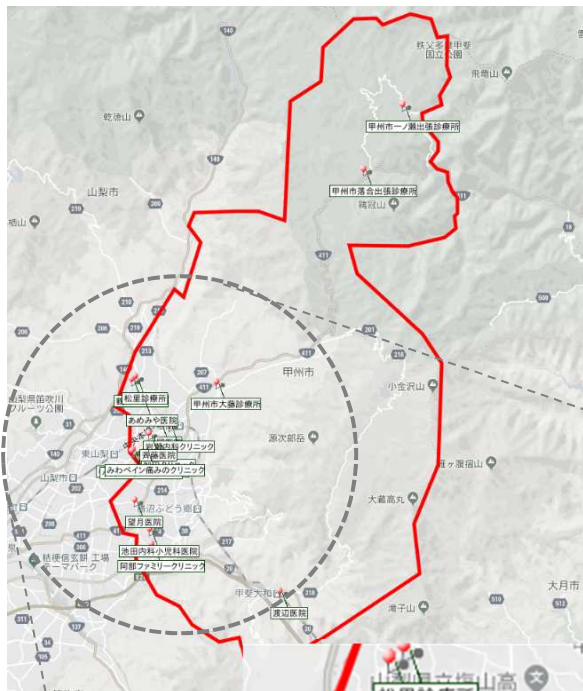
| | 診療所名 | 診療科目 |
|----|---------------|----------------------|
| 1 | 鶴田クリニック | 小児科 |
| 2 | 望月医院 | 内科、循環器科、小児科 |
| 3 | 渡辺医院 | 内科 |
| 4 | 岡医院 | 内科、リハビリテーション科、アレルギー科 |
| 5 | 岩瀬内科クリニック | 内科、消化器科、小児科 |
| 6 | 阿部ファミリークリニック | 内科、外科、整形外科、皮膚科 |
| 7 | 松里診療所 | 内科、呼吸器科 |
| 8 | 塩山皮フ科 | 皮膚科 |
| 9 | 櫻林 腎・内科クリニック | 内科、リウマチ科、人工透析内科 |
| 10 | 小澤こころのクリニック | 内科、精神科、心療内科 |
| 11 | あめみや医院 | 内科、小児科 |
| 12 | 加田クリニック | 内科、整形外科、リハビリテーション科 |
| 13 | 斉藤医院 | 内科、小児科 |
| 14 | 斉藤眼科 | 眼科 |
| 15 | 池田内科小児科医院 | 内科、小児科 |
| 16 | みわペイン痛みのクリニック | 他 ※1 |
| 17 | 甲州市落合出張診療所 | 内科 |
| 18 | 甲州市一ノ瀬出張診療所 | 内科 |
| 19 | 甲州市塩山診療所(休診中) | 内科、小児科 |
| 20 | 甲州市大藤診療所 | 内科 |

※1:やまなし医療ネットではペインクリニック内科・内科・小児科を標榜

出所:厚生局 保険医療機関・保険薬局の指定一覧

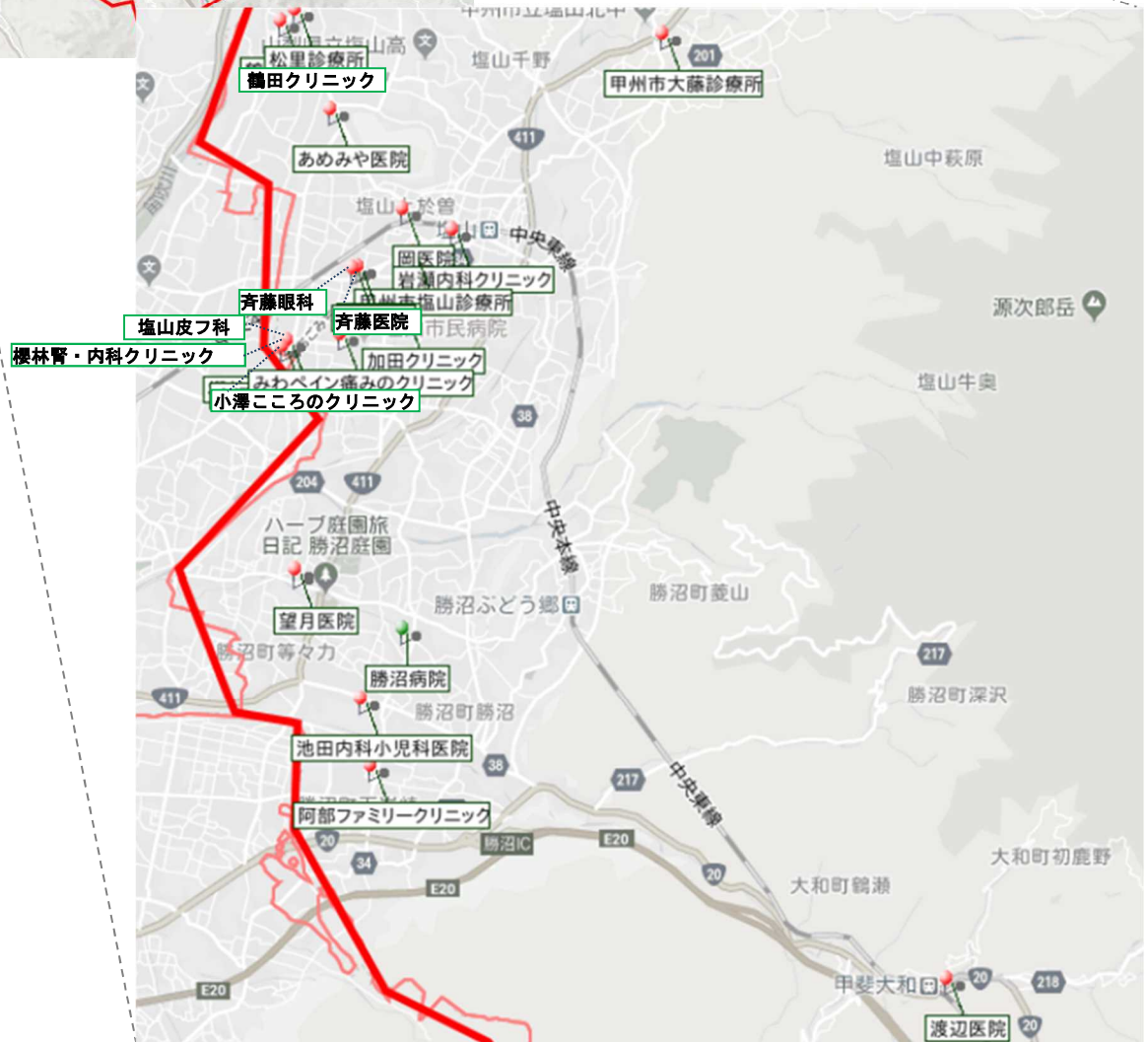
甲州市内の診療所は、南北に縦長に集積して立地している。

甲州市内診療所の配置状況



甲州市全体図

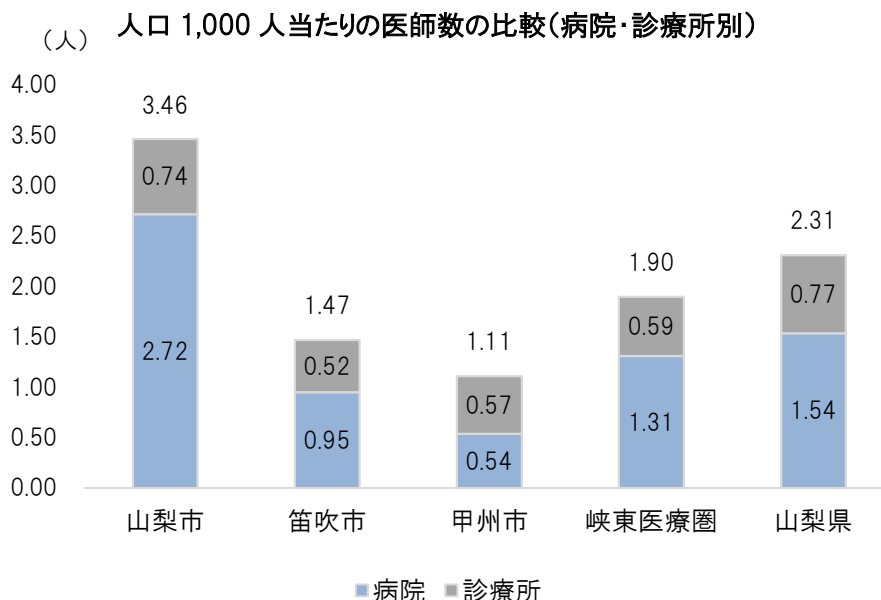
拡大図



(3) 医師の配置状況

① 人口1,000人当たりの医師数の比較

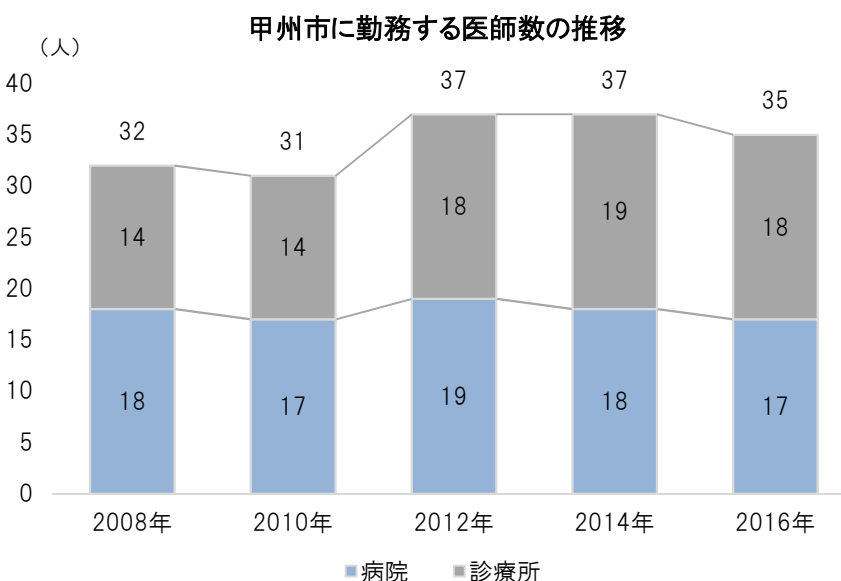
人口1,000人当たりの医師数について、病院・診療所別に甲州市と周辺の地域を比較したものである。甲州市の病院・診療所を合わせた医師数は周辺地域の中で最も少ないものの、診療所の医師数については周辺地域と同水準となっている。



出所:厚生労働省 医師・歯科医師・薬剤師調査(平成28年データ)

② 甲州市に勤務する医師数の推移

甲州市内に勤務する医師数について、病院・診療所別に2008(平成20)年からの推移を示したものである。病院に勤務する医師数はほとんど変化していないのに対し、診療所に勤務する医師数は2008(平成20)年から数名増加している。



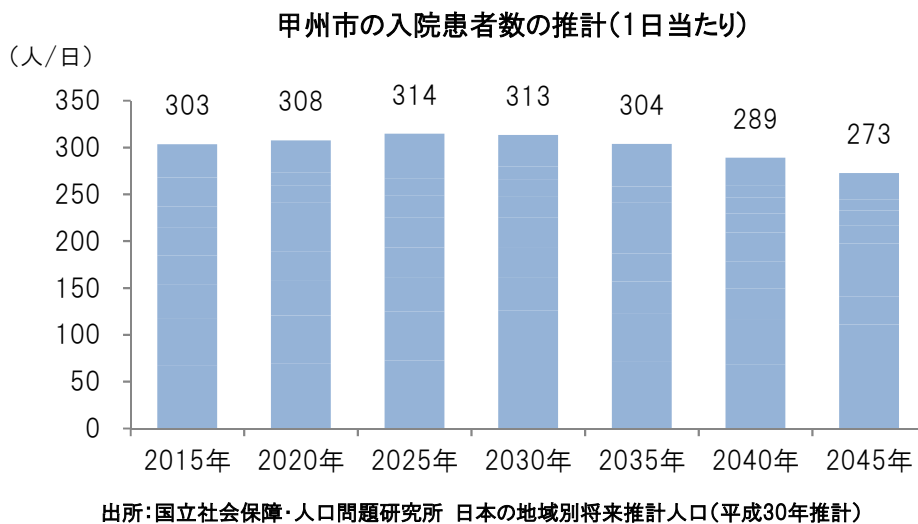
出所:厚生労働省 医師・歯科医師・薬剤師調査

3 患者の動向

(1) 入院

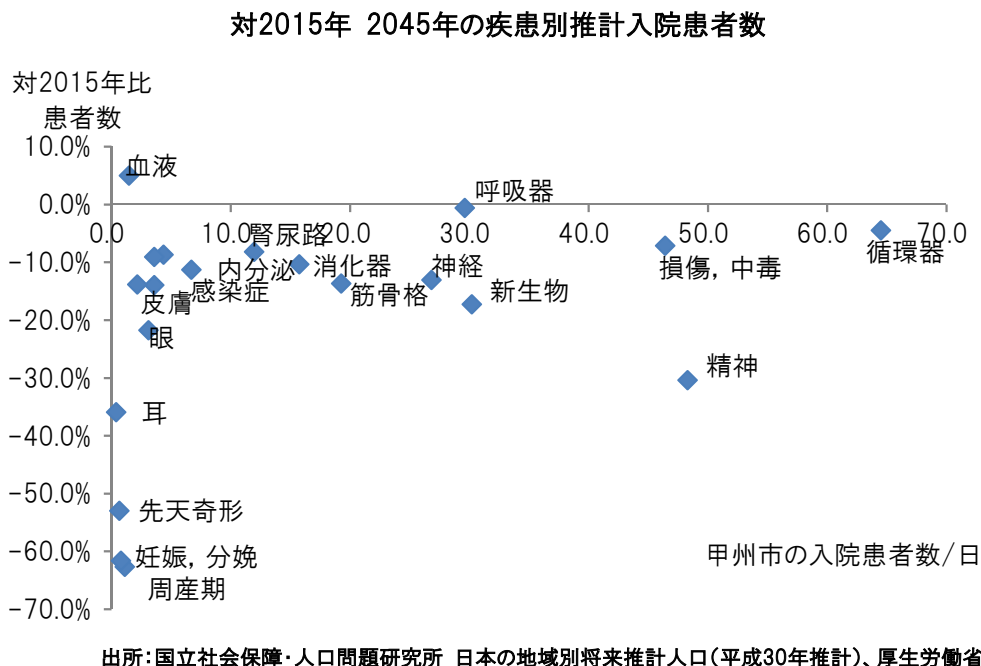
① 甲州市の入院患者数の推計(1日当たり)

将来推計患者数は、高齢者人口が現在と同程度の2035(令和17)年頃までは、1日当たり300人程度存在すると予測される。



② 甲州市の対2015(平成27)年2045(令和27)年疾患別推計入院患者数(1日当たり)

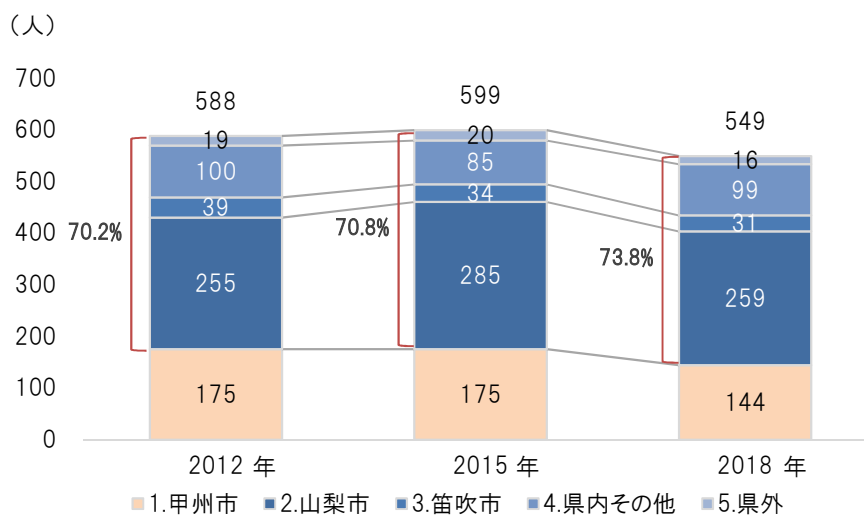
2045(令和27)年の1日当たり推計入院患者数について、2015(平成27)年実績に対する比率を疾患別に示したものである。循環器、損傷・中毒、新生物、呼吸器疾患等の患者数は、2045(令和27)年時点も多いと予測される。



③ 地域別 月間入院患者数推移

甲州市の国保・後期高齢者について、月間入院患者数の推移を医療機関の地域別に示したものである。甲州市内の患者数は減少傾向にあり、7割以上が市外で入院していることが分かる。

地域別 国保・後期高齢者月間入院患者数推移

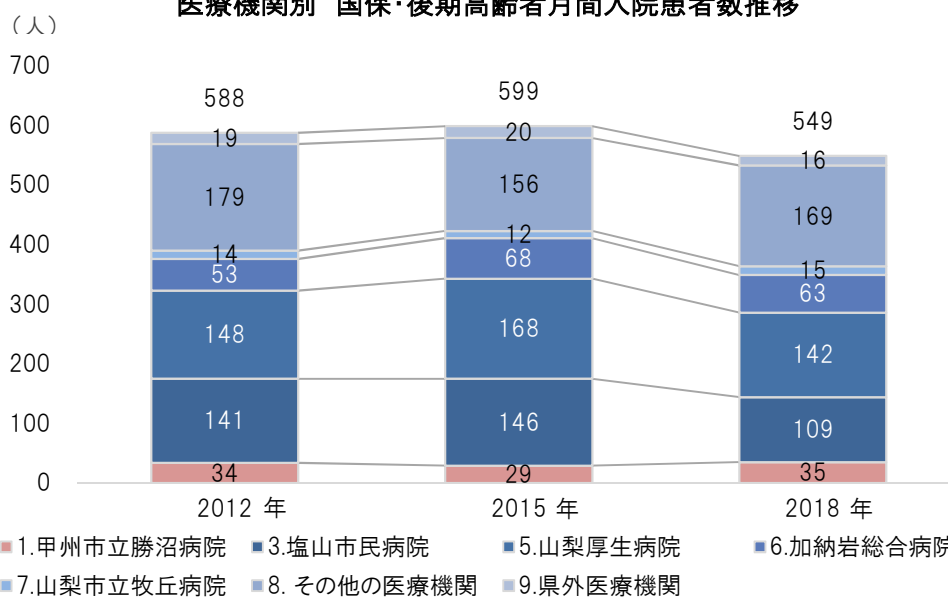


出所：国保・後期高齢者レセプト(各年9月データ)

④ 医療機関別 月間入院患者数推移

甲州市の国保・後期高齢者について、月間入院患者数の推移を医療機関別に示したものである。甲州市内の入院患者数の減少は、塩山市民病院の患者数減少の影響によるものである。勝沼病院の患者数は2012(平成24)年から減少していない。

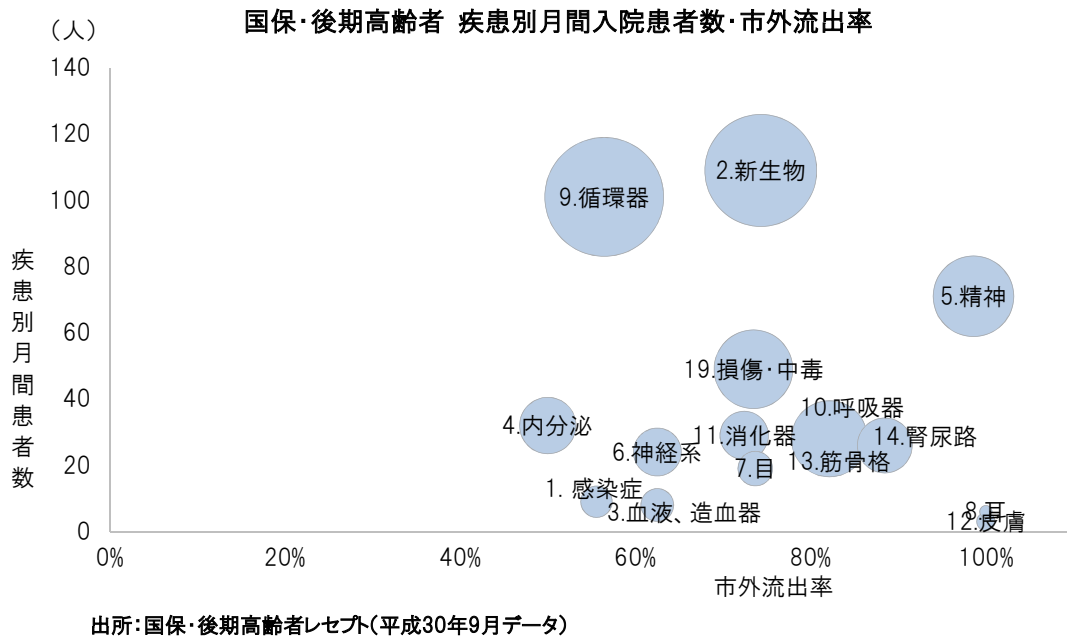
医療機関別 国保・後期高齢者月間入院患者数推移



出所：国保・後期高齢者レセプト(各年9月データ)

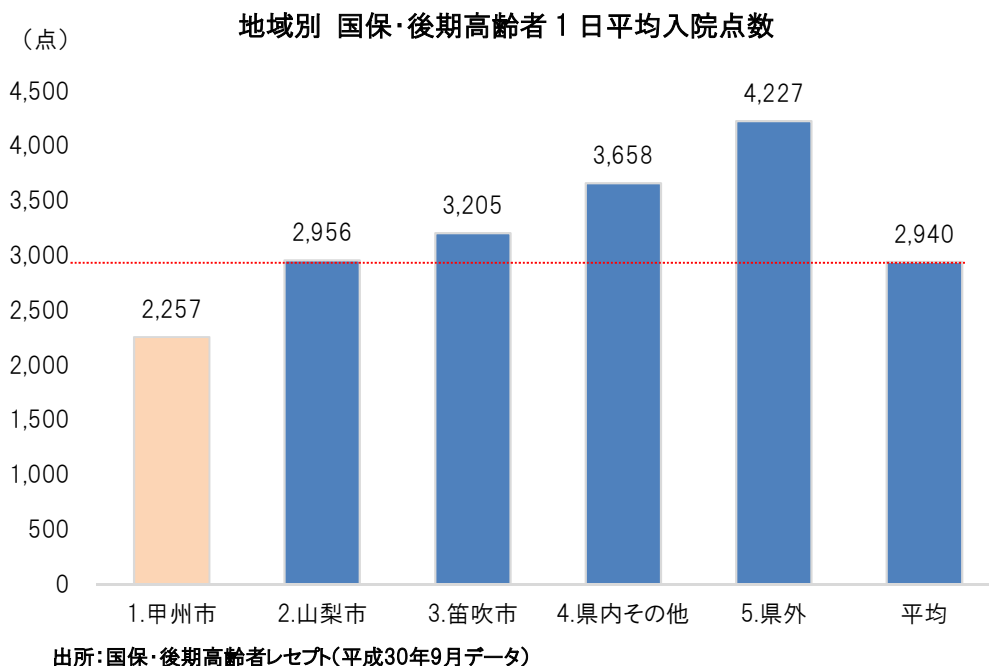
⑤ 甲州市外への入院患者流出割合

甲州市の国保・後期高齢者について、疾患別月間入院患者と甲州市外への流出率を示したものである。円の大きさは金額の大きさを表している。耳、皮膚、精神疾患で市外への流出率が特に高くなっている。



⑥ 入院単価

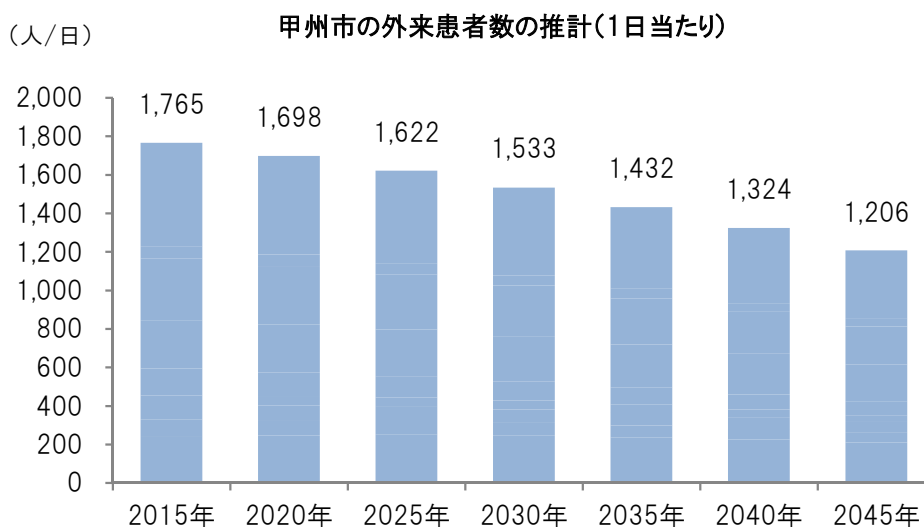
甲州市の国保・後期高齢者について、1日当たり平均入院点数を医療機関の地域別に示したものである。甲州市の1日当たり平均入院点数は県内平均を下回っていることから、手術等を多く実施する入院治療は市外医療機関で実施されていると考えられる。



(2) 外来

① 甲州市の外来患者数の推計(1日当たり)

将来推計患者数は、人口減少の影響もあり、今後も減少が続き、2045(令和27)年には1日当たり1,200名程度となると予測される。

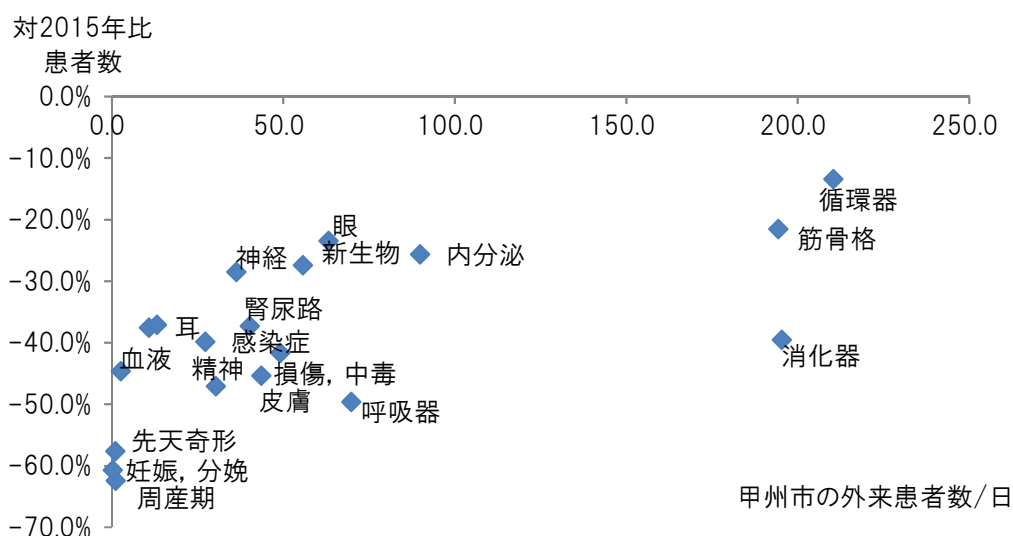


出所: 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)

② 甲州市の対2015(平成27)年2045(令和27)年疾患別推計外来患者数(1日当たり)

2045(令和27)年の1日当たり推計外来患者数について、2015(平成27)年実績に対する比率を疾患別に示したものである。循環器、筋骨格、消化器疾患の患者数は、2045(令和27)年時点も1日150人以上と予測される。

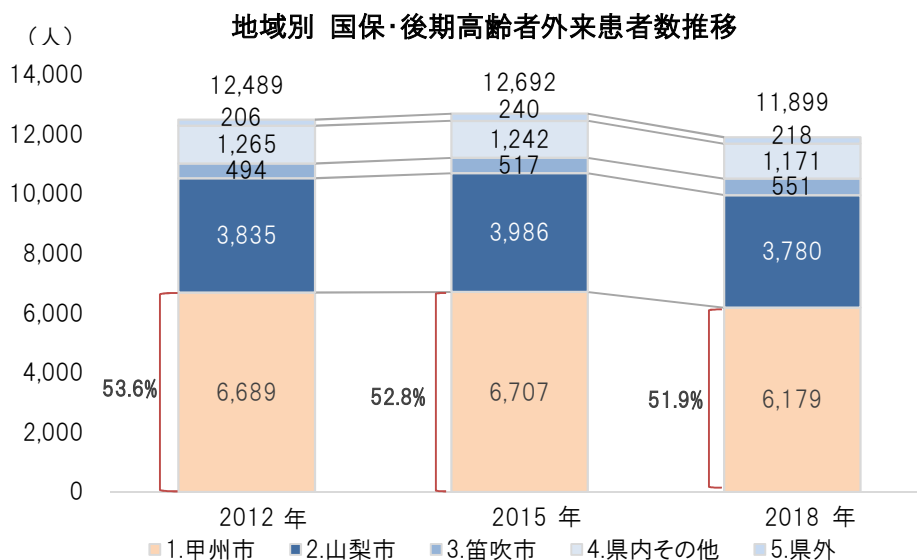
対2015年 2045年の疾患別推計外来患者数



出所: 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)、厚生労働省 患者調査

③ 地域別 月間外来患者数推移

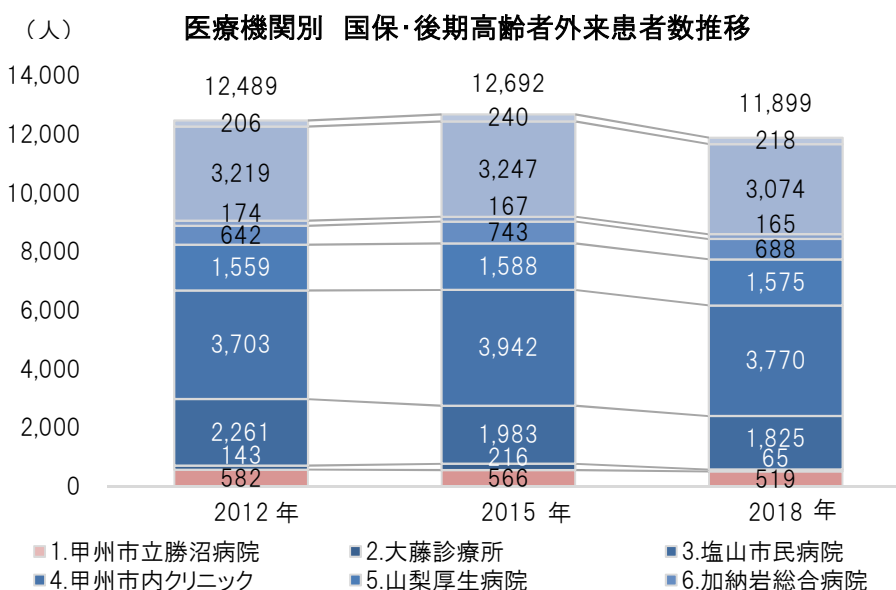
甲州市の国保・高齢者について、月間外来患者数の推移を医療機関の地域別に示したものである。甲州市内の患者数は微減となっているものの、50%を維持している。隣接する山梨市を合計すると80%を超えることから、甲州市の国保・後期高齢者についての医療は医療圏内でほぼ完結していると言える。



出所：国保・後期高齢者レセプト(各年9月データ)

④ 医療機関別 月間外来患者数の推移

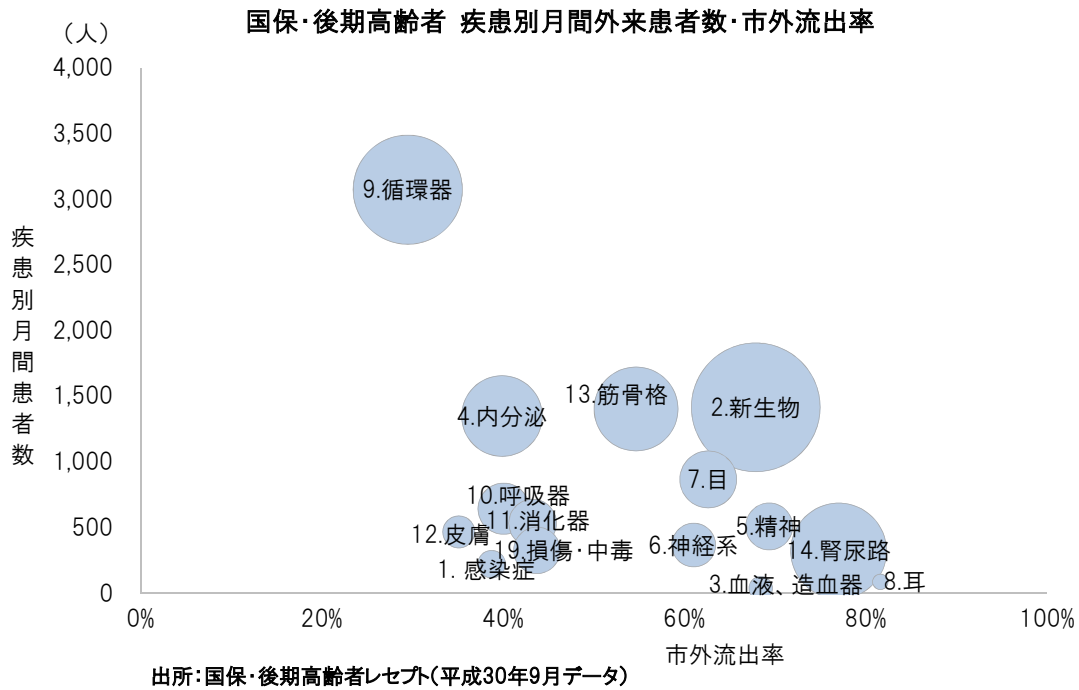
甲州市の国保・高齢者について、月間外来患者数の推移を医療機関別に示したものである。2015年(平成27)以降、患者数は全体で800名程度減少している。



出所：国保・後期高齢者レセプト(各年9月データ)

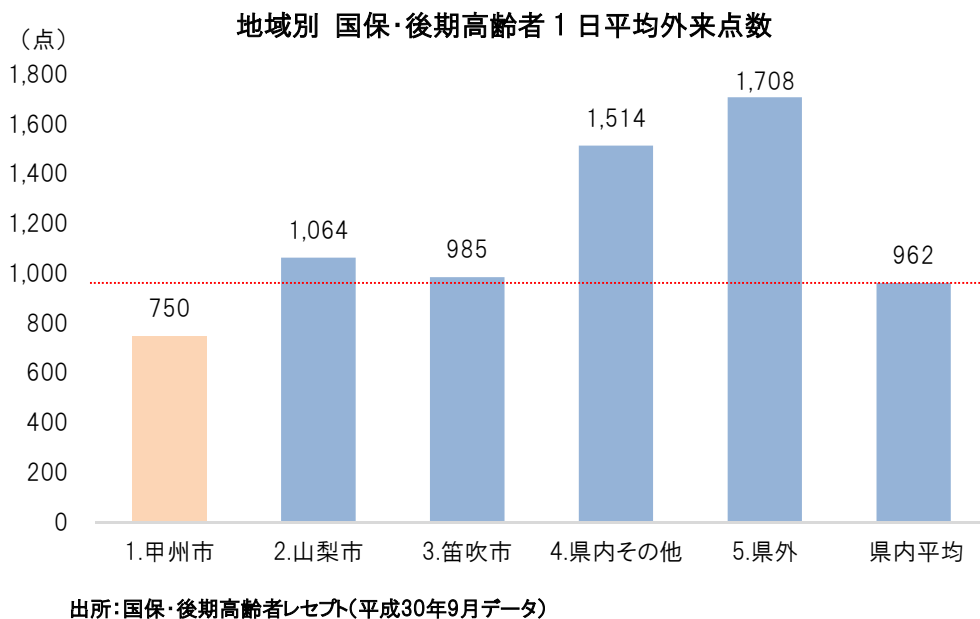
⑤ 甲州市外への外来患者流出割合

甲州市の国保・後期高齢者について、疾患別月間外来患者数、甲州市外への流出率を示したものである。円の大きさは金額の大きさを表している。耳、腎尿路疾患で市外への流出率が特に高くなっている。



⑥ 外来単価

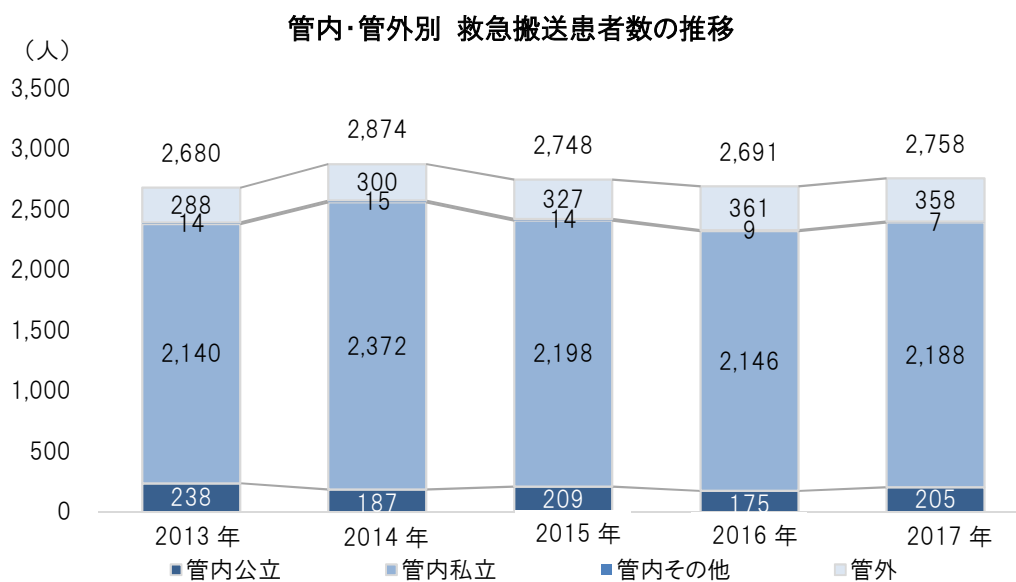
甲州市の国保・後期高齢者について、1日当たり平均外来点数を医療機関の地域別に示したものである。甲州市の1日当たり平均外来点数は県内平均を下回っていることから、化学療法等の高額な治療は市外医療機関にて実施されていると考えられる。



(3) 救急

① 管内・管外別 救急搬送患者数の推移

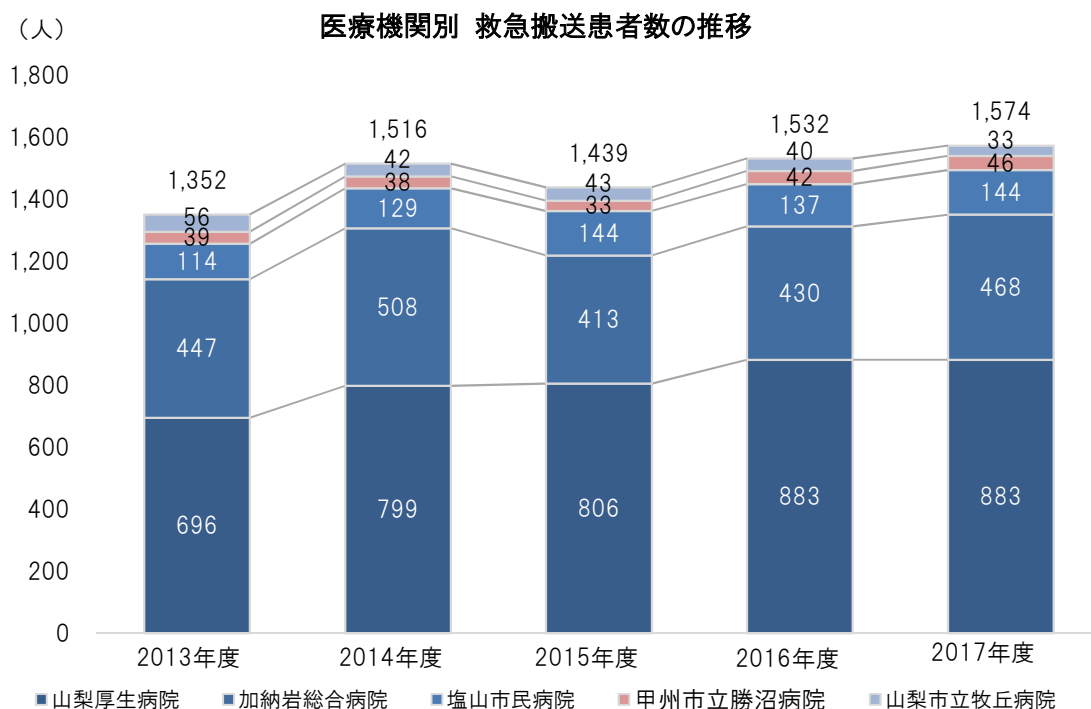
東山梨地区で救急搬送された患者数について、管内、管外別に搬送先の推移を示したものである。救急搬送人数は近年2,700人前後で推移している一方、管外への搬送割合は微増となっている。



出所：消防年報(平成25年度～平成29年度)

② 医療機関別 救急搬送患者数の推移

夜間・休日に東山梨地区の医療機関へ救急搬送された患者数の推移を示したものである。2017(平成29)年度の東山梨地区全体の搬送患者数は1,574人となっており、2013(平成25)年度と比較すると、山梨市立牧丘病院を除くすべての医療機関で増加している。



| 搬送先 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 山梨厚生病院 | 696 | 799 | 806 | 883 | 883 |
| 加納岩総合病院 | 447 | 508 | 413 | 430 | 468 |
| 塩山市民病院 | 114 | 129 | 144 | 137 | 144 |
| 甲州市立勝沼病院 | 39 | 38 | 33 | 42 | 46 |
| 山梨市立牧丘病院 | 56 | 42 | 43 | 40 | 33 |
| 総計 | 1,352 | 1,516 | 1,439 | 1,532 | 1,574 |

出所:病院群輪番制病院運営事業実績報告書(平成25年度～平成29年度)

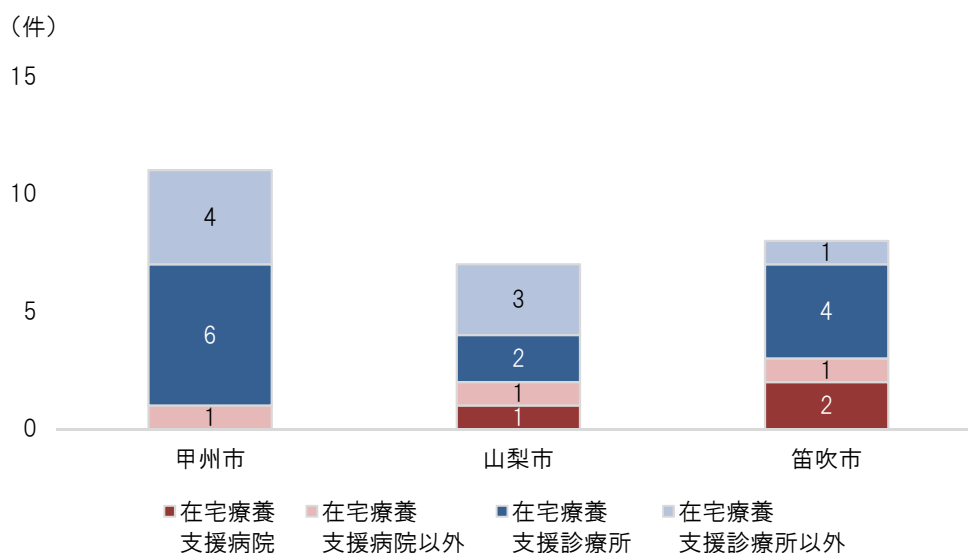
(4) 在宅

1) 甲州市および周辺市の在宅医療の実施状況

① 訪問診療を実施している医療機関の数

訪問診療を実施している医療機関は、病院・診療所を合わせると甲州市が最も多く、次いで笛吹市、山梨市となっている。

訪問診療を実施している医療機関の数

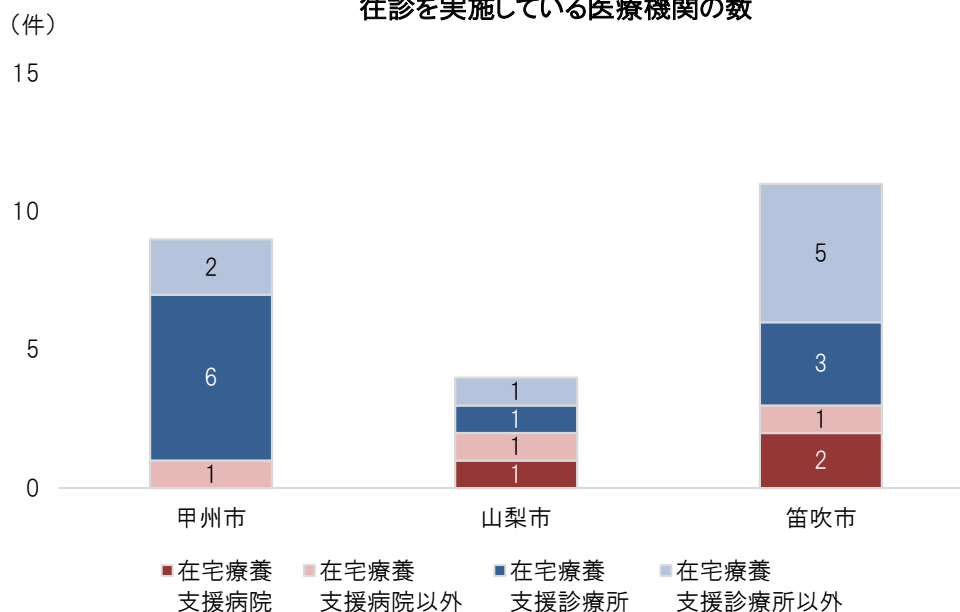


出所：厚生労働省在宅医療にかかる地域別データ集(平成29年9月)

② 往診を実施している医療機関の数

往診を実施している医療機関の数は笛吹市が最も多く、次いで甲州市、山梨市の順に多くなっている。

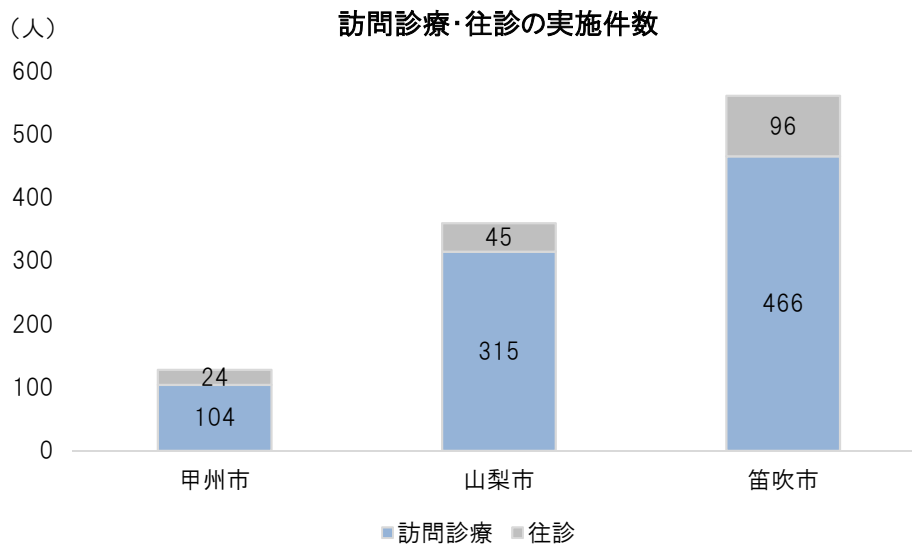
往診を実施している医療機関の数



出所：厚生労働省在宅医療にかかる地域別データ集(平成29年9月)

③ 訪問診療・往診の実施件数

2017(平成29)年9月の訪問診療・往診の実施件数では山梨市・笛吹市と比較すると在宅医療の提供人数が少ない状況となっている。

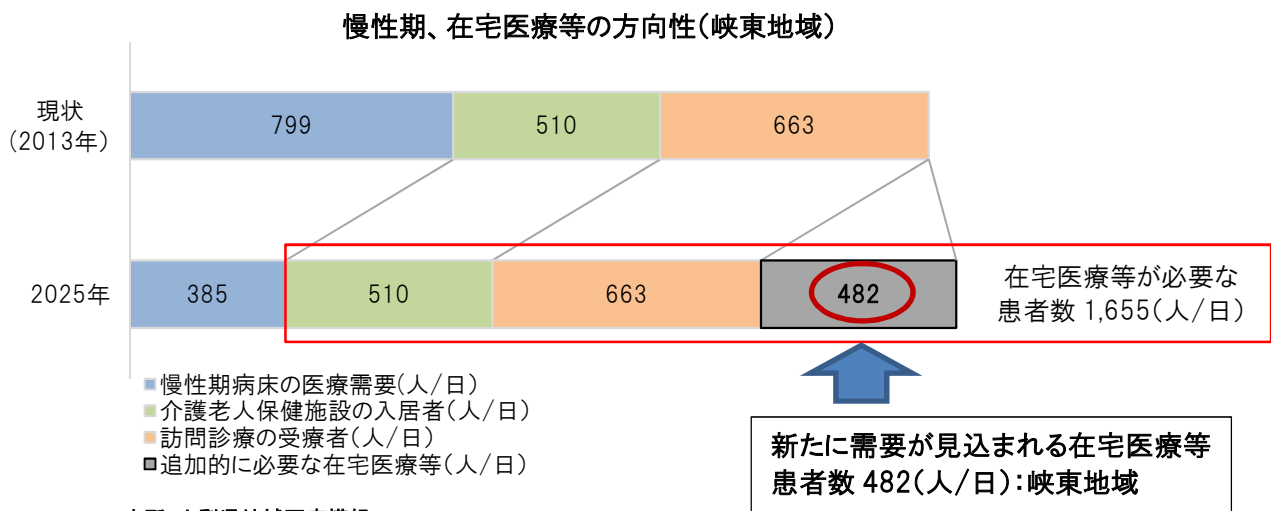


出所:厚生労働省在宅医療にかかる地域別データ集(平成29年9月)

2) 今後の在宅医療の需要見込み

2016(平成28)年5月に山梨県で設定した地域医療構想の峡東医療圏において、2025(令和7)年時点で在宅医療等が必要な患者数は1,655(人/日)と推計される。(2013(平成25)年度の介護老人保健施設の入所者510(人/日)、訪問診療の受療者663(人/日)、追加的に必要な在宅医療等482(人/日)の合計)

甲州市での追加で対応が必要な在宅医療等患者数は、峡東医療圏の在宅医療等が必要な患者数の482(人/日)を甲州市・山梨市・笛吹市の65歳以上の高齢者人口で按分すると約119(人/日)と推計される。



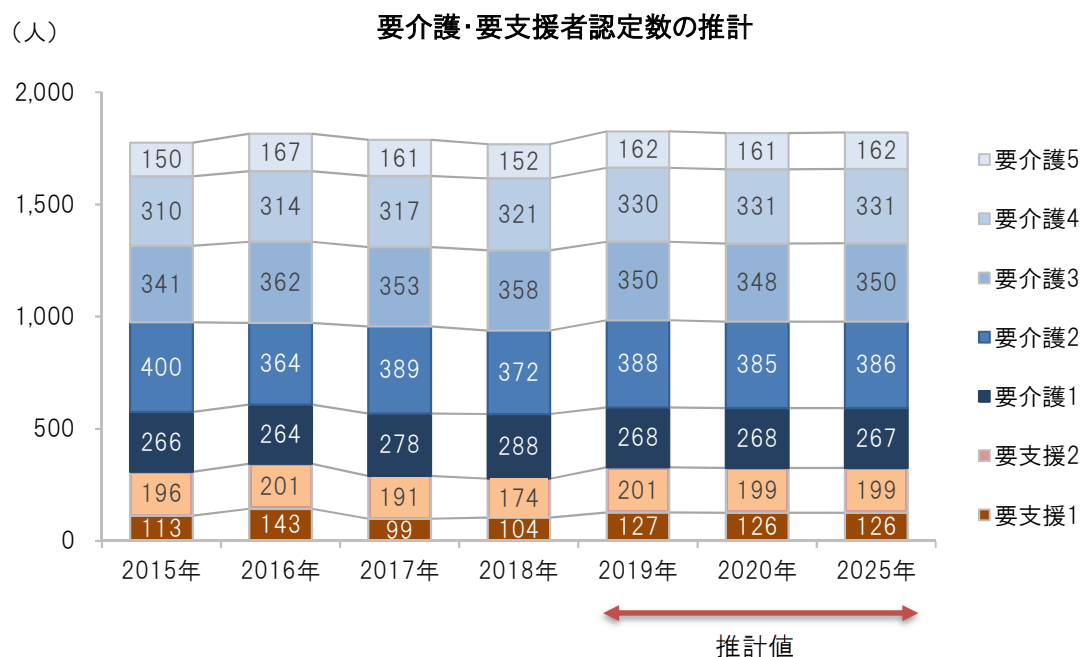
出所:山梨県地域医療構想

4 介護の提供状況

(1) 甲州市の要介護・要支援者数および介護給付費推計

① 要介護・要支援者認定数の推計

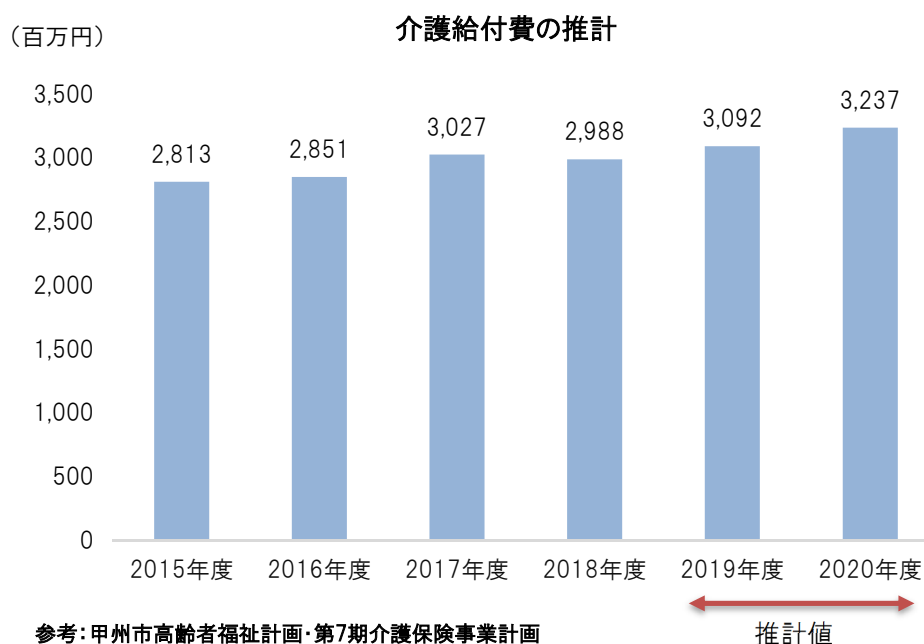
要介護者及び要支援者認定数は、全体で見ると2025(令和7)年まで数値は横ばいと予測される。



参考: 甲州市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画

② 介護給付費の推計

介護給付費総額は年々増加しており、2020(令和2)年度には2015(平成27)年度時点から約4億円増え、32億円に達する見込みである。



参考: 甲州市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画

5 医療と介護の連携の状況

甲州市では、塩山市民病院に業務委託し、地域における在宅医療・介護についての相談・調整を行う甲州市在宅医療・介護サポートセンターを設置している。医療・介護連携の取組の一環として、医療・介護関連事業所からの相談を受け付けている。

下記の図表は、2018(平成30)年度の甲州市在宅医療・介護サポートセンターの相談内容別実績である。相談件数112件のうち、最も多いのは入院・転院相談の61件で、次いで受診相談が32件となっている。振分けはサポートセンターが相談者の希望や必要に応じて振り分けているが、勝沼病院との連携は現状では希薄な状態であり、連携の余地はあると考えられる。

相談内容別相談件数(2018(平成30)年度)

| 相談内容 | 件数 |
|--------------------------------|-----|
| 訪問診療相談・依頼 | 7 |
| 臨時往診 | 0 |
| 訪問看護相談・依頼 | 3 |
| 訪問リハ相談・依頼 | 0 |
| 受診相談 | 32 |
| 入院・転院相談 | 61 |
| その他(栄養相談、薬剤指導、 制度活用、ST 評価等) | 9 |
| 計 | 112 |

医療機関へ振分け

- 塩山市民病院
- 勝沼病院
- 市外医療機関

出所:平成30年度 甲州市在宅医療・介護サポートセンター実績

6 甲州市の医療をとりまく現状と課題

以下の表は、甲州市の医療をとりまく現状と課題について、医療機能ごとにまとめたものである。

甲州市の医療をとりまく現状と課題

| | | |
|----|---|--|
| 全体 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 甲州市の人口は、今後25年で40%ほど減少する予測(高齢者数自体は大きな減少なし) ・ 高齢化が進行し、2045(令和27)年には高齢化率が約53%に達する見込み、高齢者世帯、在宅1人暮らし高齢者数が増加する見込み ・ 周辺の市と比較して、人口に対する医師数が少ない | |
| 医療 | 入院 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者数は2035(令和17)年頃までは、1日当たり300人程度存在すると予測される ・ 国保・後期高齢者の入院患者の約75%は市外医療機関で入院しており、特に山梨市の医療機関への依存度が高く、市全体としての入院機能が低下している ・ 疾患別の入院患者数では、妊娠・分娩・周産期の患者が今後25年間で約60%減少する見込み |
| | 外来 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来患者数は減少傾向にあり、甲州市の1日当たりの外来患者数は今後25年で約3割減少すると予測される ・ 国保・後期高齢者の市内シェアは50%ほどあり、山梨市を含むと80%を超える ・ 化学療法等の高額な外来治療は市外医療機関で実施されている ・ 疾患別の外来患者数では、妊娠・分娩・周産期の患者が今後25年間で約60%減少する見込み ・ 内科、小児科以外の診療科目を設置している診療所が少ない |
| | 在宅 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 峡東地域において、新たな在宅医療等の需要が一定数見込まれている |
| | 救急 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の高齢化により救急医療の対応が困難になることが予想される |
| 介護 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護施設の稼働率は総じて高く、需要に対応しきれない可能性がある ・ 医療・介護連携に取り組んでいるものの、今後連携の余地がある | |

**高齢者の医療を支える環境づくりのため、
公的医療機関としての役割を果たすことが必要**

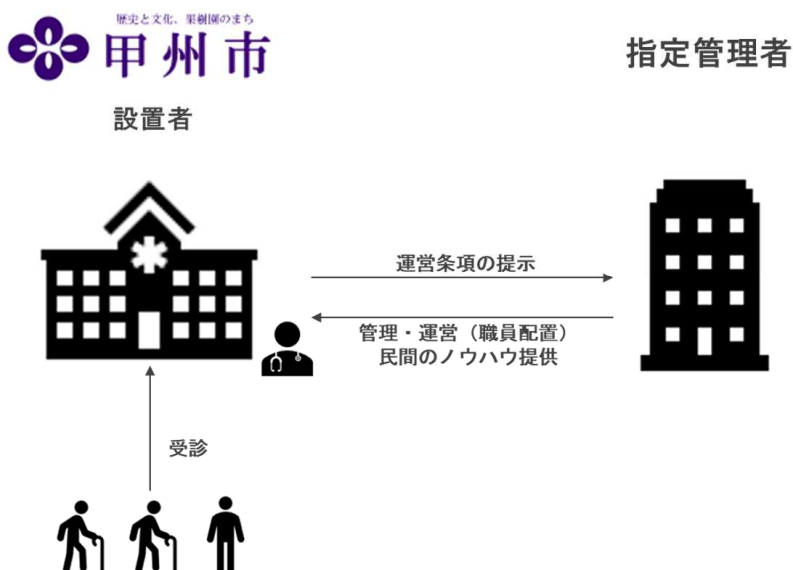
Ⅲ 勝沼病院の状況

1 病院概要

勝沼病院の概要

| | |
|-------------|---|
| 病院名 | 甲州市立勝沼病院 |
| 所在地 | 甲州市勝沼町勝沼 950 番地 |
| 設置者 | 甲州市 |
| 管理運営(指定管理者) | 公益財団法人山梨厚生会 |
| 病床数 | 51 床(地域一般病床 15 対 1) |
| 診療科目 | 診療科目:9 診療科 外科・内科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・婦人科・リハビリテーション科 |
| 施設概要 | 敷地面積:5,237.72 m ² 建物構造:地上 2 階、鉄筋コンクリート造 延床面積:1,924.116 m ² |
| 主な医療機器 | 一般撮影装置、マンモグラフィ、X 線 TV 装置 |
| 施設の沿革 | 1950(昭和 25)年 10 月:国保直営勝沼診療所開設 1964(昭和 39)年 9 月 :経営管理を財団法人山梨厚生会山梨診療所に委託(現公益財団法人山梨厚生会山梨厚生病院) 1984(昭和 59)年 6 月 :現病院地に病床 19 床、6 診療科目の規模で勝沼町立勝沼診療所を開設 1991(平成 3)年 11 月 :勝沼町立勝沼病院を開設(51 床 7 診療科目) 管理運営を山梨厚生会へ委託 2007(平成 19)年 4 月 :指定管理制度導入 |

下記の図表は、指定管理者制度の概要を示したイメージ図である。病院の設置者である甲州市が指定管理者に委託し、指定管理者は病院の管理・運営および民間のノウハウ提供を行うという仕組みになっている。

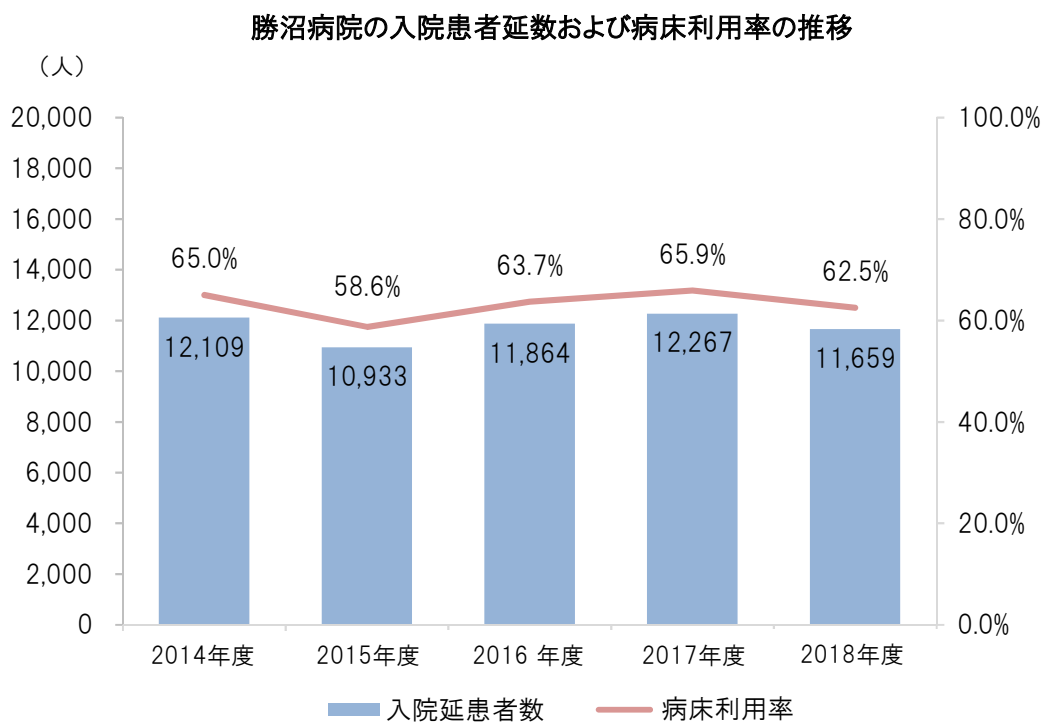


2 診療の状況

(1) 入院患者

① 勝沼病院の入院患者延数および病床利用率の推移

勝沼病院の入院患者延数および病床利用率の推移を示したものである。患者数は、年度によって多少変動はあるものの、12,000人前後で推移している。病床利用率は、概ね60%～65%で推移している。

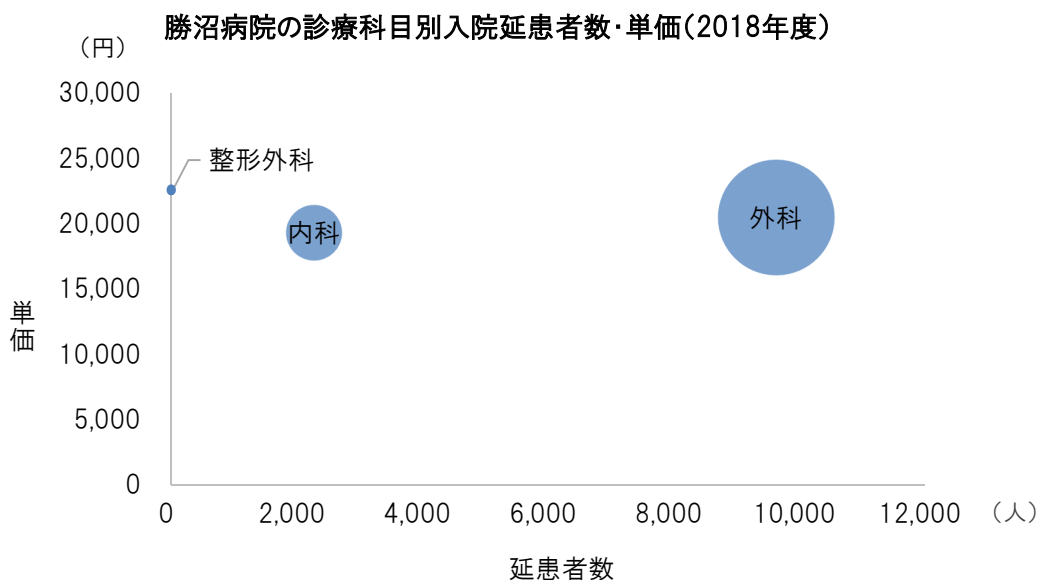


| | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 入院延患者数(人) | 12,109 | 10,933 | 11,864 | 12,267 | 11,659 |
| 病床利用率(%) | 65.0 | 58.6 | 63.7 | 65.9 | 62.5 |

出所：山梨厚生会 甲州市勝沼病院指定管理事業報告(平成30年度)、事業報告書(平成28年度)

② 勝沼病院の診療科目別入院延患者数・単価

2018(平成30)年度実績について診療科目別に延患者数と単価を示したものである。円の大きさは金額の大きさを表している。2018(平成30)年度の入院収入は外科が最も多く、次いで内科、整形外科の順に多い。

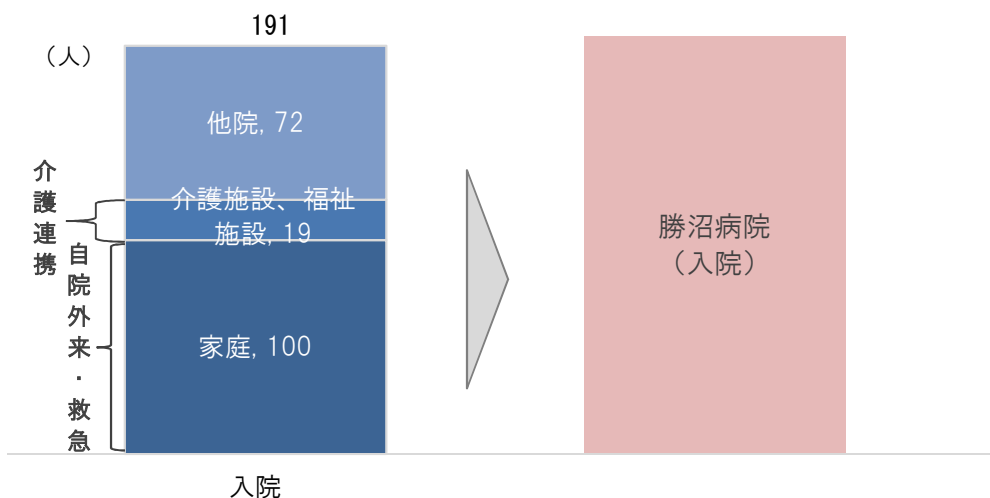


出所: 医業収益分析表(平成30年度)

③ 勝沼病院の入院経路

2018(平成30)年10月から2019(令和元)年5月までの入院実績について、勝沼病院の入院経路を示したものである。191人のうち、自院外来・救急からの入院が100人、介護連携による入院が19人となっている。

勝沼病院の入院経路(2018年10月～2019年5月)

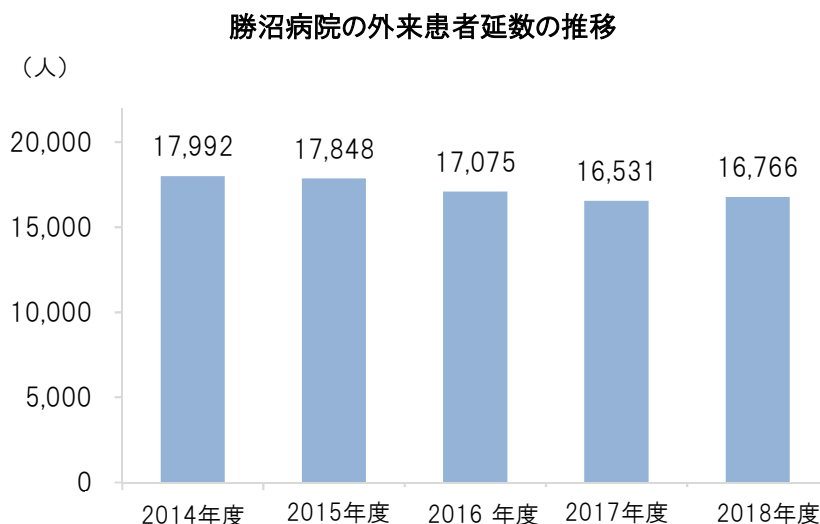


出所: 甲州市立勝沼病院 入退院患者状況(平成30年10月～令和元年5月)

(2) 外来患者

① 勝沼病院の外来患者延数の推移

勝沼病院の外来患者延数の推移を示したものである。外来患者延数は、過去5年間で1,000人ほど減少している。減少の要因としては、人口減少による影響と、患者負担軽減のために実施した処方日数の長期化が考えられる。

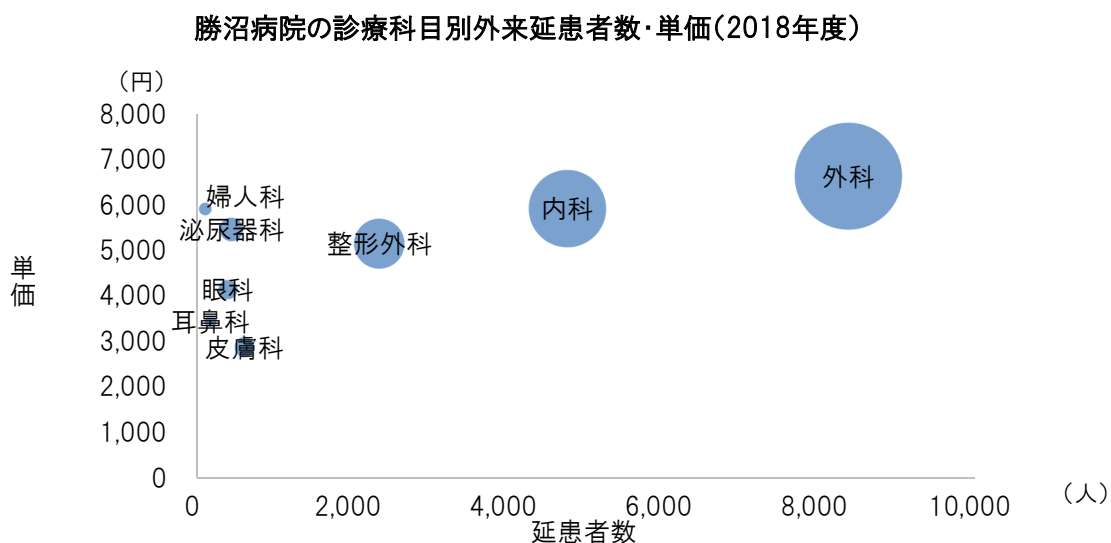


| | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 外来延患者数(人) | 17,992 | 17,848 | 17,075 | 16,531 | 16,766 |

出所：山梨厚生会 甲州市勝沼病院指定管理事業報告(平成30年度)、事業報告書(平成28年度)

② 勝沼病院の診療科目別外来延患者数・単価

2018(平成30)年度実績について診療科目別に延患者数と単価を示したものである。円の大きさは金額の大きさを表している。外来収入としては、入院収入と同様外科が最も多く、次いで内科、整形外科の順に多い。

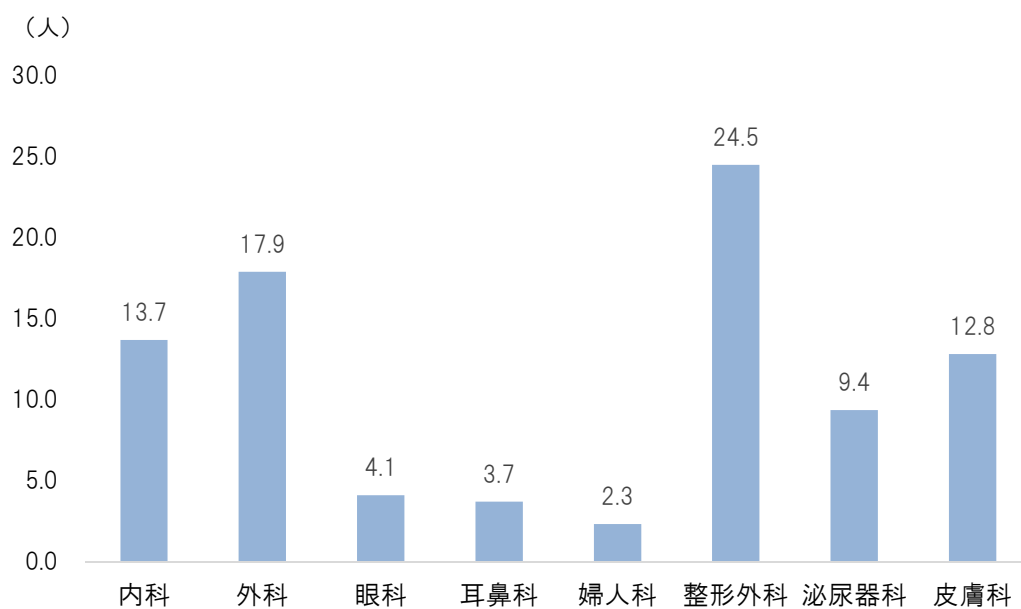


出所：医業収益分析表(平成30年度)

③ 診療科目別 1コマ当たり患者数

診療科目別の1コマ(半日)当たり患者数を示したものである。眼科、耳鼻科、婦人科は1コマ当たり患者数が5人未満となっている。

診療科目別 1コマ当たり患者数(2018年延患者数から算出)



出所: 医業収益分析表(平成30年度)

3 検診の状況

(1) 乳がん検診

2018(平成30)年度の乳がん検診対象者および検査内容についての表である。甲州市在住の41歳以上の女性が対象で、2019(令和元)年度からは、がん検診の指針に基づき助成が2年に1回となる。

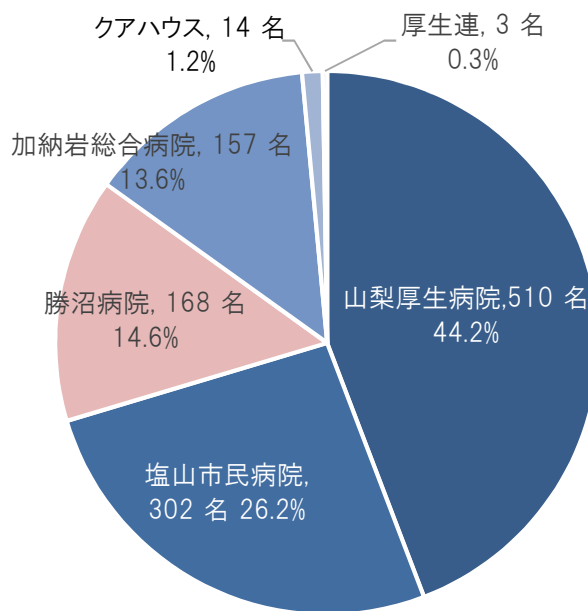
乳がん検診対象者(2018年度)

| | |
|------|---|
| 対象者 | 甲州市に住所を有する41歳以上の女性(2019年4月1日時点の年齢) |
| 検査内容 | 問診・マンモグラフィ検査 ※医師の勧めなどで乳房超音波検査が適する場合には、マンモグラフィではなく乳房超音波検査を受診することも可能 |
| 備考 | 2019年度から乳がん検診は2年に1回の助成となる |

出所:平成30年度甲州市健康カレンダー

2018(平成30)年度の乳がん検診受診者の内訳を医療機関別に示したものである。受診者のうち、半数近くは山梨厚生病院で受診しており、勝沼病院で受診したのは15%弱となっている。

医療機関別 乳がん検診受診者数



出所:平成30年度乳がん検診受診者実績

(2) 子宮がん検診

2018(平成30)年度の子宮がん検診対象者および検査内容についての表である。甲州市在住の21歳以上の女性が対象で、乳がん検診と同様、2019(令和元)年度からは助成が2年に1回となる。

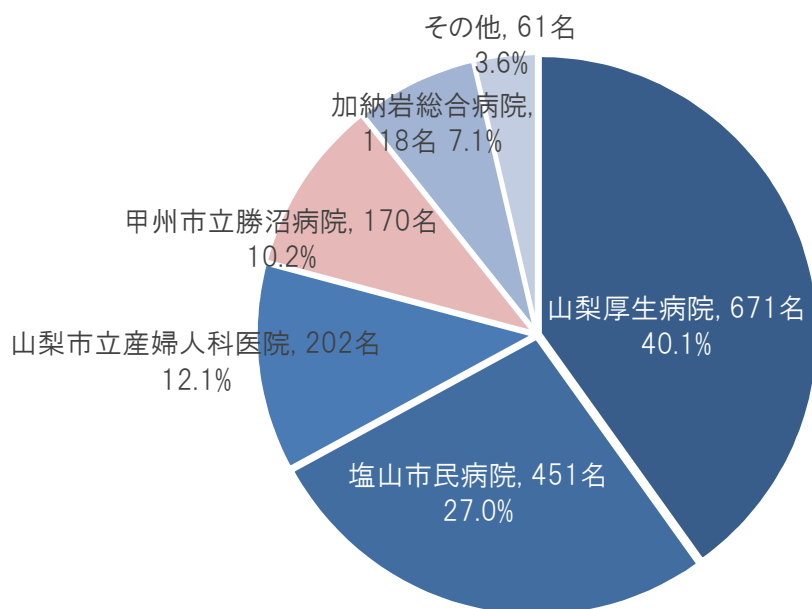
子宮がん検診対象者(2018年度)

| | |
|------|---|
| 対象者 | 甲州市に住所を有する原則21歳以上の女性および妊婦(2019年4月1日時点の年齢) |
| 検査内容 | 問診・子宮頸部細胞診 |
| 備考 | 2019年度から子宮がん検診は2年に1回の助成となる |

出所:平成30年度甲州市健康カレンダー

2018(平成30)年度の子宮がん検診受診者の内訳を医療機関別に示したものである。受診者の4割が山梨厚生病院で受診しており、勝沼病院での受診者は約10%となっている。

医療機関別 子宮がん検診受診者数



出所:平成30年度子宮がん検診受診者実績

(3) 人間ドック

2018(平成30)年度の甲州市国保人間ドック対象者および検査内容についての表である。甲州市国保加入者の40～74歳が対象で、定員は1,200名としている。

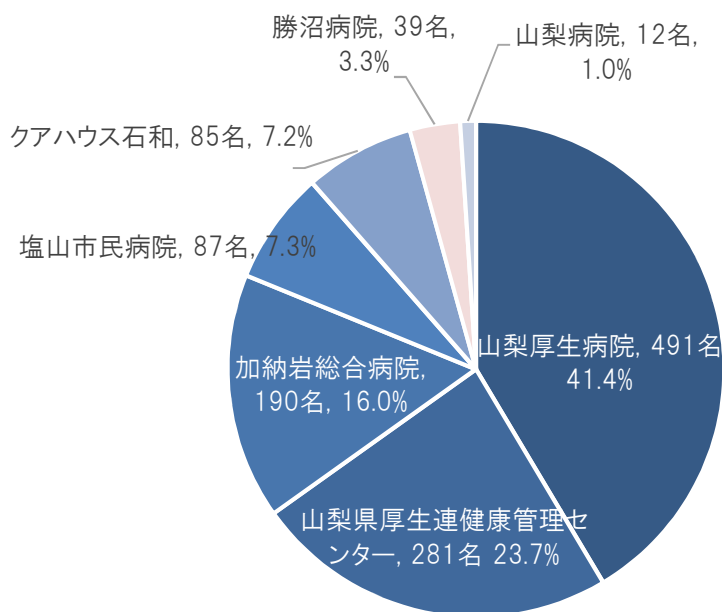
甲州市国保人間ドック対象者(2018年度)

| | |
|------|---|
| 対象者 | 甲州市国保加入者の40～74歳で、国保税を滞納していない世帯の方 |
| 検査内容 | 特定健診(身体測定・血圧・尿検査・血液検査等)、心電図、胸部レントゲン、便潜血検査、胃内視鏡(またはレントゲン)、超音波検査、眼科(眼底・眼圧・視力)、聴力、肝炎ウイルス検査、女性のみ乳がん・子宮頸がん検診 |
| 定員 | 1,200名 |
| 備考 | 人間ドック申込者は、市で行う総合健診、乳がん検診、子宮頸がん検診、国保個別医療機関健診は受診不可 |

出所:平成30年度甲州市健康カレンダー

2018(平成30)年度の甲州市国保人間ドック受診者の内訳を医療機関別に示したものである。2018(平成30)年度は、定員1,200名のうち1,185名が受診した。そのうちの4割は山梨厚生病院で受診し、勝沼病院で受診したのは3%程度であった。

医療機関別 甲州市国保人間ドック受診者数



出所:平成30年度国保人間ドック受診者実績

4 経営状況

(1) 収益・費用の構成

勝沼病院の経営指標は以下のとおりである。

事業の収支としては、2017(平成29)年度は4,200万円、2018(平成30)年度は5,200万円の赤字を計上している。2018(平成30)年度には材料費のコスト削減が行われたが、入院患者数の減少と外来単価の低下によりそれ以上に収入が減少したため、赤字幅が拡大した。費用構造としては、ほとんどを人件費が占めていることが特徴である。

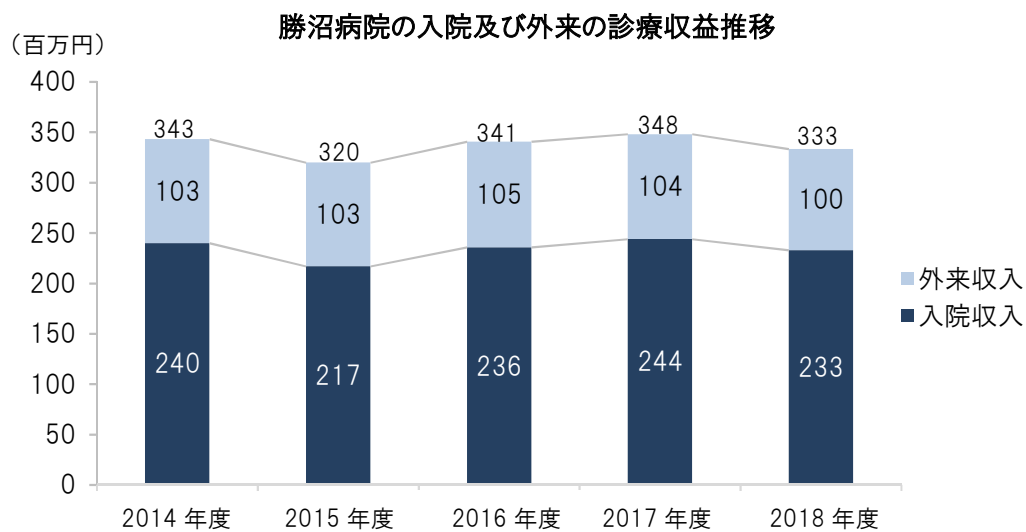
勝沼病院の経営状況

| | 2017年度 | 2018年度 |
|-------------------|----------------|----------------|
| 医業収益(千円) | 364,673 | 350,284 |
| 入院収入(千円) | 243,898 | 232,736 |
| 入院単価(円) | 19,882 | 20,245 |
| 延患者数(人) | 12,267 | 11,659 |
| 病床利用率(%) | 65.9 | 62.5 |
| 外来収入(千円) | 104,070 | 100,470 |
| 外来単価(円) | 6,295 | 5,793 |
| 延患者数(人) | 16,531 | 16,766 |
| その他の医業収入(千円) | 16,705 | 17,078 |
| 介護事業収益(千円) | 758 | 638 |
| 事業費用(千円) | 408,187 | 402,929 |
| 人件費 | 314,288 | 314,197 |
| 材料費 | 37,842 | 32,708 |
| 経費 | 56,057 | 56,024 |
| 事業利益(千円) | △42,756 | △52,007 |

出所：決算書(平成30年度),厚生会事業報告(平成30年度)

(2) 医業収益の内訳

過去5年間の医業収益は、入院・外来ともにやや減少傾向にある。



出所：山梨厚生会 甲州市勝沼病院指定管理事業報告(平成30年度)、事業報告書(平成28年度)

5 勝沼病院の現状と課題

(1) 現状分析

以下の表は、勝沼病院の現状について総括したものである。保有する医療資源は限られているものの、介護施設との連携等において、取組の余地があると言える。

勝沼病院の現状分析

| | |
|------|---|
| 業績 | - 可能な範囲で入院・救急患者の受入れや看取りを実施しているため、現人員体制では大幅な収益改善は見込まれない。 |
| 組織体制 | - 1名の常勤医師で入院・外来・救急に対応している。 - 外来は非常勤医師の割合が高いが、入院へつながることが期待される内科の枠数が不足状態にある。 |
| 取組活動 | - 医療側では、救急(1.5次)の対応や他院(介護施設)からの転院を断らずに実施している。 - 事務側では、院内で診療報酬の取得向上の取組活動は行われている。 - 診療所・在宅事業者との積極的な連携・病院の認知度をあげる活動は不足しており、連携をすることで一次預かり機能や在宅を支援できる可能性がある。 |
| 病院機能 | - 指定管理で運営しているため、病床数や診療科目は病院独自での決定が出来ない。 - 行政として、住民の利便性と収益状況を鑑みた医療機能の方向性を出す必要がある。 |

(2) 課題の整理

以下は、勝沼病院の課題についてまとめた表である。主な課題としては、①安定的に患者を取り込む力が弱い、②提供すべき医療機能と提供体制に齟齬がある、③公共性と収益性の方針が不明確の3点に集約できる。

勝沼病院の課題

| | 現状認識 | 課題 |
|----|--|---|
| 入院 | - 入院医療に対応できる常勤医師が不足状態 | - 医療提供体制が脆弱であり、現状以上の入院受入が困難 |
| | - 自院外来・介護施設からの入院経路が同規模病院と比較少ない ・ 入院経路: 外来50%、介護施設16%、他院からの紹介34%(紹介は他院と比較多い) | - 病床利用率向上に向けた、安定した入院経路強化の取組みが必要 - 医療資源を十分活用しきれていない |

| | | |
|-----------|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> - 病床利用率が季節により変動が大きい <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018(平成30)年平均63%、8月75.1%、2月74.4%、5月55% | |
| | <ul style="list-style-type: none"> - 診療報酬算定強化の取組みは医事課中心に行われているものの、伸ばす余地がある <ul style="list-style-type: none"> ・ 算定の余地あり: 退院時リハビリテーション加算等 | <ul style="list-style-type: none"> - 施設基準、指導料等、一部診療報酬算定強化の余地がある |
| 外来 | <ul style="list-style-type: none"> - 内科の午後診療のニーズに対応出来ていない <ul style="list-style-type: none"> ・ 内科午後診察日: 水曜日のみ対応 | <ul style="list-style-type: none"> - 内科診療枠(可能であれば常勤)の確保が必要 |
| | <ul style="list-style-type: none"> - 一部診療科目の患者数が少ない | <ul style="list-style-type: none"> - 収益性と地域の医療のバランスを考えた診療科目設定が必要 |
| 在宅医療・介護連携 | <ul style="list-style-type: none"> - 地域の在宅を担っている診療所や、在宅系介護施設(居宅介護支援事業所等)との連携についての取組みが弱い | <ul style="list-style-type: none"> - 地域の診療所との連携強化が必要 - 甲州市在宅医療・介護サポートセンターや、市内の居宅介護支援事業所との連携が必要 - 在宅医療について検討が必要 |
| 組織体制 | <ul style="list-style-type: none"> - 常勤医師(特に内科)が確保できない | <ul style="list-style-type: none"> - 常勤医師が不足状態にある - 非常勤医師の今後の方針決定が必要 - オンコール体制のあり方について検討が必要 |

主な課題

① 安定的に患者を取り込む機能が弱い

② 提供すべき医療機能と提供体制に違いがある

③ 公共性と収益性の方針が不明確

(3) 課題解決のための方向性の整理

| 主な課題 | 方向性 |
|----------------------|---|
| 安定的に患者を取り込む機能が弱い | <ul style="list-style-type: none"> - 常勤医師の確保 - 介護事業所との連携強化 |
| 提供すべき医療機能と提供体制に違いがある | <ul style="list-style-type: none"> - 高齢者全般の診療機能の強化 - 常勤医師の確保 - 在宅医療への取組の検討 |
| 公共性と収益性の方針が不明確 | <ul style="list-style-type: none"> - 地域の病院・診療所との機能分担を図る |

Ⅳ 勝沼病院の目指す姿・期待される役割

1 目指す姿

甲州市立勝沼病院は下記3項目の機能整備を目指す。

- (1) 安定した医療提供の継続 : 甲州市で継続的に医療を提供できる病院
- (2) 地域連携の促進 : 近隣診療所との地域医療連携の促進
- (3) 在宅医療・介護連携の拠点 : 近隣介護施設や居宅介護支援事業所と連携し一体的な医療介護の提供体制の拠点となる

2 期待される役割

目指す姿の実現のために、勝沼病院では次の役割を担う。

- (1) 地域の住民に安定した医療を提供する。
- (2) かかりつけ患者の入院や、他の医療機関から在宅へ戻るまでの復帰支援の場を提供する。
- (3) 救急搬送の受け入れを継続し、周辺の医療機関と連携して対応する。
- (4) 近隣の診療所や在宅医療に取り組む施設と連携を図り、急変時の入院を受け入れる。

V 勝沼病院の基本方針(重点取組)

(1) 外来機能

- 勝沼・大和地区のかかりつけ医機能の強化
 - ・内科外来の枠数強化(常勤医師配置、非常勤医師の枠数増加)
- 甲状腺専門医療の継続
 - ・県内で対応できるところが少ない甲状腺専門医療を継続する。
- 診療科目の整理
 - ・非常勤医師が診察し、受診患者数が少ない診療科目を整理する。

→近隣病院、診療所等に対応可能な診療科目に限る。整理する事で収益の改善を図る。

本院の診療科目は、外科以外は非常勤医師で行っている。内科は常勤医師の確保を目指す。整形外科、泌尿器科等の現在外来患者数の多い診療科目については非常勤医師で継続して実施する。

今後想定する診療科目

| | 現病院 | 今後の想定 |
|-------|-----|--|
| 外科 | 常勤 | 常勤体制継続 |
| 内科 | 非常勤 | 常勤化を目指す |
| 整形外科 | 非常勤 | 非常勤医師で継続 |
| 泌尿器科 | 非常勤 | |
| 皮膚科 | 非常勤 | |
| 耳鼻咽喉科 | 非常勤 | 診療科目見直し対象 (地域の状況・大学との 医師派遣の状況加味) |
| 眼科 | 非常勤 | |
| 婦人科 | 非常勤 | |

※リハビリテーション科は、外科常勤医師が兼務することで継続。

- 人間ドック、健診事業の対応範囲の見直し
 - ・人間ドックや健診事業は設備が充実している近隣病院(塩山市民病院、山梨厚生病院、加納岩総合病院)等と連携することにより、健診機能は縮小もしくは廃止する。

(2) 入院機能

- 慢性期、看取り等の入院機能の継続、在宅療養の急変時の一時預かり機能の強化
- 療養環境改善により利用者が安心して医療を受けられる環境の整備
 - 病床数は現在の51床から減床し40床程度を目指す。現在の6床室を4床室へ改修することなどにより、療養環境の向上を図る。
- 甲状腺疾患の入院患者の維持

(3) 在宅医療機能

- 在宅医療の取組に向けた検討

(4) 救急医療機能

- 輪番病院として現状と同程度の機能を維持し、画像検査等が必要な救急患者については急性期病院と連携

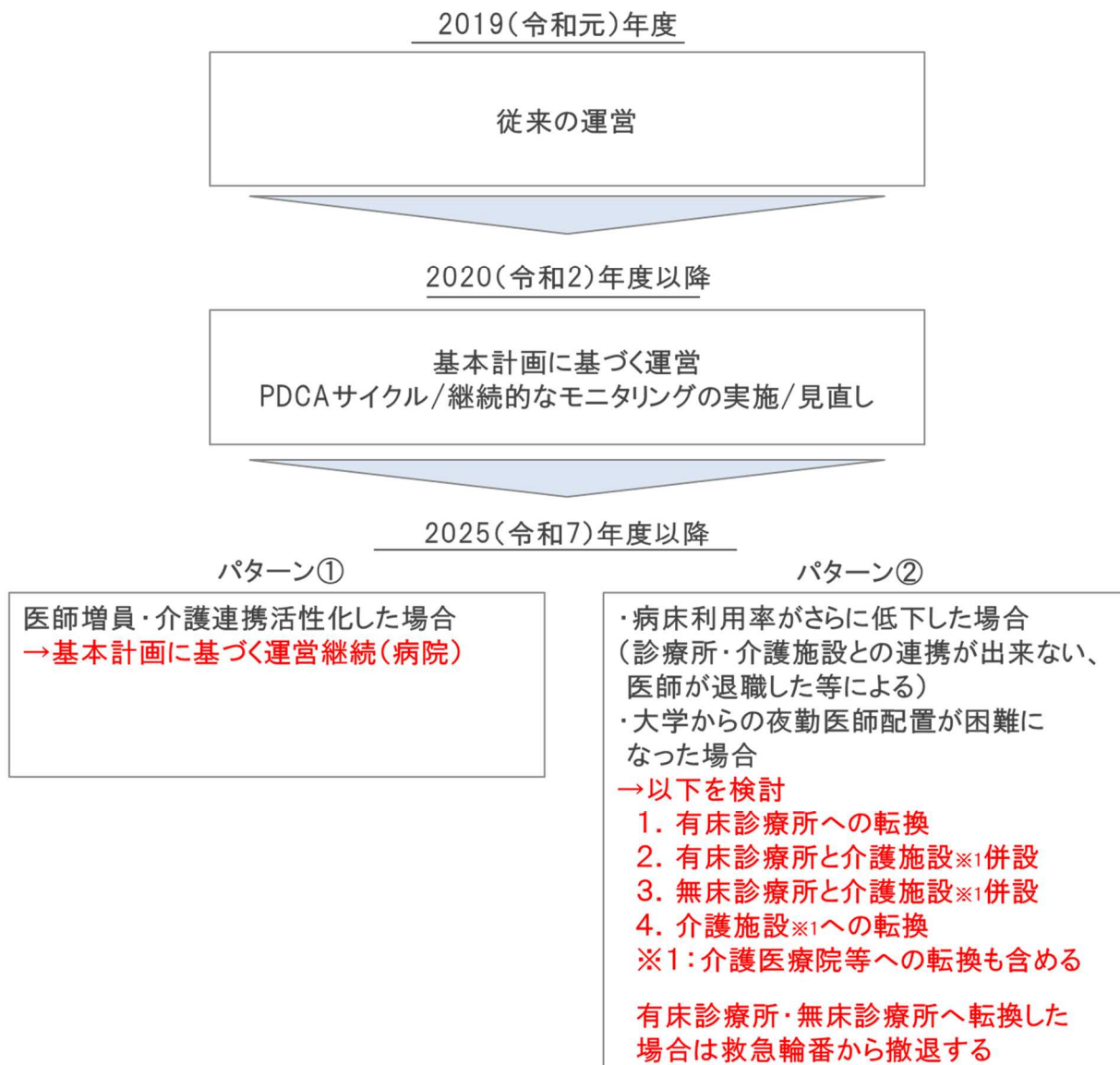
(5) 地域の医療機関、介護施設との連携機能

- 近隣の在宅医療を行っている診療所などと連携し一時預かり機能の役割を分担
- 甲州市在宅医療・介護サポートセンターと連携

VI 勝沼病院の中長期的な方向性

勝沼病院は基本方針に沿って診療体制の整備、連携に向けた取組を進め、安定した医療の継続と介護との連携を推進していく。

今後、医療環境の変化や医師の働き方改革がもたらす課題など不確定な要素も存在する。甲州市では毎年度PDCAサイクルによる継続的なモニタリングを実施し、必要に応じて医療機能や運営形態の見直しを行う。



Ⅶ大藤診療所の状況

1 診療所概要

大藤診療所の概要

| | |
|-------------|--|
| 診療所名 | 甲州市大藤診療所 |
| 所在地 | 甲州市塩山上栗生野 13 番地 1 |
| 設置者 | 甲州市 |
| 管理運営(指定管理者) | 甲州市 |
| 病床数 | 無床診療所 |
| 診療科目 | 診療科目:1診療科 内科 |
| 施設概要 | 敷地面積:716.64 m ² 建物構造:地上1階木造 延床面積:158.7 m ² |
| 主な医療機器 | 一般撮影装置 |

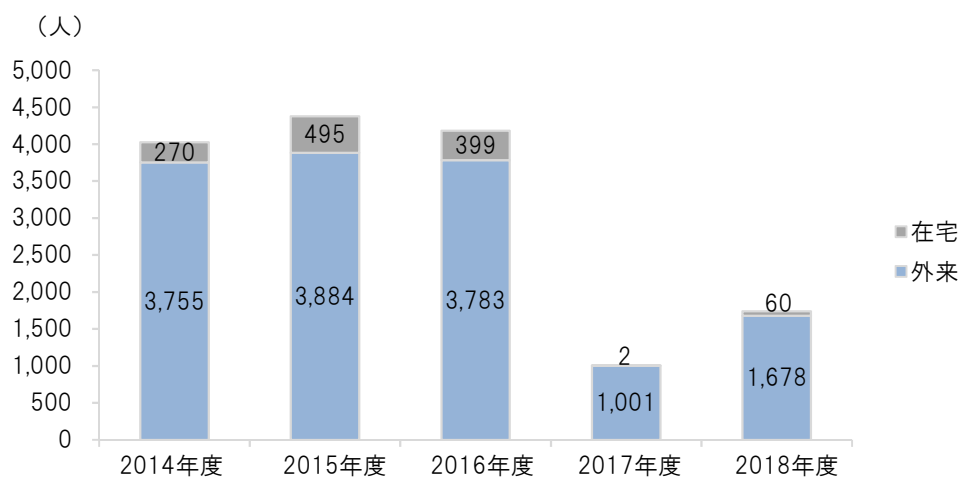
2 診療の状況

(1) 外来患者

① 延外来患者数の推移

大藤診療所の延外来患者数の推移を示したものである。2016(平成28)年度までは4,000人程度で推移していたが、2017(平成29)年度に医師不在により一時閉院した影響から、それ以降大幅に減少している。

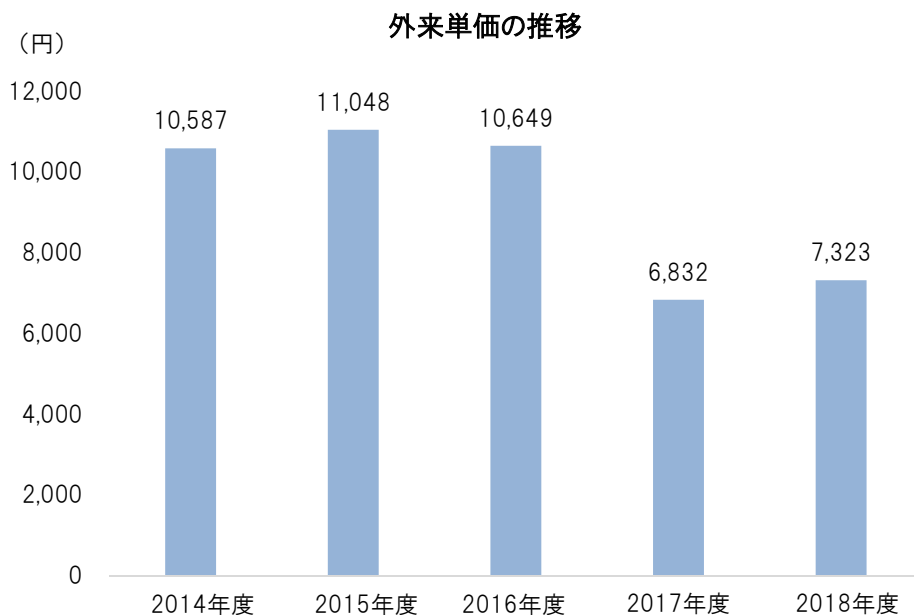
延外来患者数の推移



出所: 甲州市大藤診療所収納金月計表(平成26年度~平成30年度)

② 外来単価の推移

大藤診療所の外来単価の推移を示したものである。2016(平成28)年度までは10,000円強で推移し、2017(平成29)年度以降は約7,000円となっている。



出所: 甲州市大藤診療所収納金月計表(平成26年度～平成30年度)

3 経営状況

(1) 収益・費用の構成

大藤診療所の経営指標は以下のとおりである。

事業の収支としては、2017(平成29)年度は2,600万円、2018(平成30)年度は3,800万円の赤字を計上した。費用構造としては、主に人件費である総務管理費が占める割合が非常に高く、2018(平成30)年度の総務管理費が医業収益の約2.7倍であった。

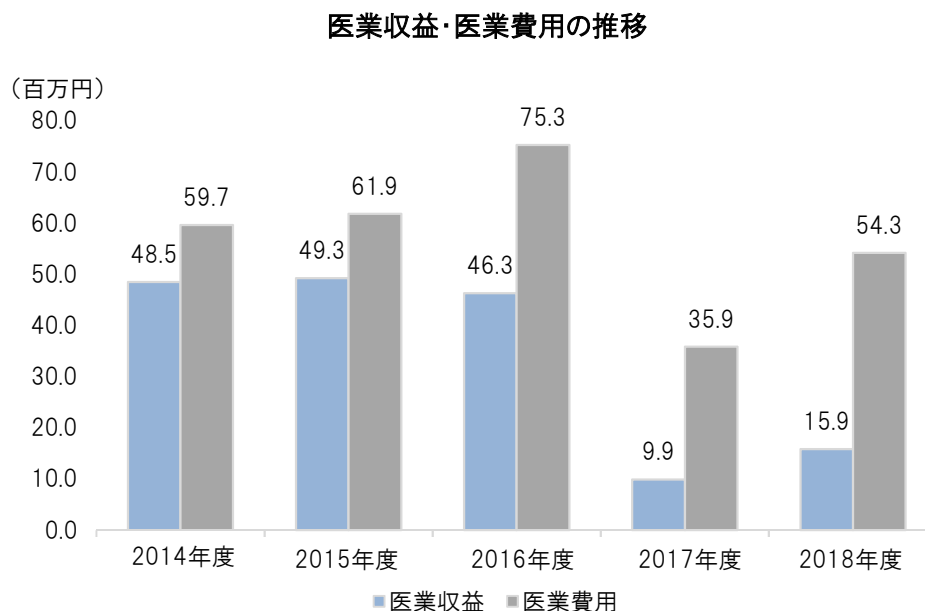
大藤診療所の経営状況

| | 2017年度 | 2018年度 |
|----------|---------|---------|
| 医業収益(千円) | 9,890 | 15,851 |
| 事業費用(千円) | 35,917 | 54,272 |
| 総務管理費 | 27,761 | 42,823 |
| 医業費 | 7,378 | 9,695 |
| 施設管理費 | 778 | 1,754 |
| 事業利益(千円) | △26,027 | △38,421 |

出所: 甲州市診療所事業特別会計歳入歳出決算事項別明細書(平成25年度～29年度)、甲州市診療所特別会計決算(平成30年度)

(2) 医業収益・医業費用の推移

医業収益は、2017(平成29)年度以降、一時閉院していた影響で大きく減少した。医業収支差額の赤字額は増加傾向にある。



出所：甲州市診療所事業特別会計歳入歳出決算事項別明細書(平成25年度～29年度)、甲州市診療所特別会計決算(平成30年度)

4 大藤診療所の現状と課題

(1) 現状分析

以下の表は、大藤診療所の現状について総括したものである。訪問診療、往診など地域の在宅医療も担っている。

大藤診療所の現状分析

| | |
|-------|---|
| 組織体制 | <ul style="list-style-type: none"> - 外来患者数が少ないため、医療資源が活用されていない。 - 2019(平成31)年1月より、医師は週2コマ勝沼病院で内科外来も担当し、勝沼病院の常勤内科医師が居ない状態をカバーしている。 |
| 取組活動 | <ul style="list-style-type: none"> - 常勤医師が週5日大藤診療所で診察している事で、大藤地域とその周辺の高齢者の方へ手厚い医療を提供できている。 - 一時期常勤医師の不在により患者数が減少したが、訪問診療・往診にも対応し、地域の在宅医療を担っており、患者数は回復傾向にある。 |
| 診療所機能 | <ul style="list-style-type: none"> - 行政として、住民の利便性と収益状況を鑑みた医療機能の方向性(診療日数等)を出す必要がある。 |

(2) 課題の整理

以下の表は、大藤診療所の課題についてまとめた表である。主な課題としては、①地域の需要に見合った医療提供量(診療日数)の設定、②外来患者数と人員の適正配置のバランスが取れていないの2点に集約できる。

大藤診療所の課題

| | 現状認識 | 課題 |
|------|---|---|
| 外 来 | <ul style="list-style-type: none"> - 一時期常勤医師の退職に伴い、通院患者を他院へ紹介したことにより、患者数が大きく減少した ・ 延患者数:2016(平成28)年度3,783人 2017(平成29)年度1,001人、2018(平成30)年度:1,678人 | <ul style="list-style-type: none"> - 2018(平成30)年度から常勤医師が配置されたため、現時点での評価は困難であるが、外来患者減少の傾向もあり、2016(平成28)年度程度までは患者数が戻らない可能性が高い - 患者数が大きく改善しない場合、運営方針(診療日数)の検討が必要 |
| | <ul style="list-style-type: none"> - 規定により診療時間が短いため、他の診療所と比較した際に学生や社会人は取り込めていない 診察時間:午前 8:30-11:30 午後 13:30-16:30 | <ul style="list-style-type: none"> - 地域ニーズに合った診療体制の検討が必要 |
| 在宅医療 | <ul style="list-style-type: none"> - 一時期常勤医師の退職に伴い、在宅患者を他院へ紹介したことにより、患者数が大幅に減少した ・ 延患者数2016(平成28)年度:399人 2017(平成29)年度:2人 2018(平成30)年度:60人 | <ul style="list-style-type: none"> - 高齢者人口が増加するなかで、訪問診療等のニーズにどこまで対応するか等の検討が必要 |
| 出張診療 | <ul style="list-style-type: none"> - へき地医療として、一ノ瀬地区・落合地区の医療を担っている ・ 一ノ瀬地区3人、落合地区9人 | <ul style="list-style-type: none"> - 将来的に大藤診療所を縮小した際の、診療体制の検討が必要 |
| 組織体制 | <ul style="list-style-type: none"> - 患者数に対して人員配置が過剰 ・ 現在の配置: 常勤医師1名、看護師常勤1名、看護師パート1名、事務長1名、医療事務1名 | <ul style="list-style-type: none"> - 患者数に見合う職員配置を検討 - 配置人数の絞込みによる人件費の削減 |

主な課題

①地域の需要に見合った医療提供量(診療日数)の設定

②外来患者数と人員の適正配置のバランスが取れていない

(3) 課題解決のための方向性の整理

| 主な課題 | 方向性 |
|---------------------------|---|
| 地域の需要に見合った医療提供量の設定 | <ul style="list-style-type: none">- 高齢化が進む大藤・玉宮・神金地区で、医療・介護の相談窓口としての機能を強化することで、医療介護連携に貢献する- 外来診療日数の調整- 中長期的に患者数の増加が見込めない場合、診療日数の調整を行う |
| 外来患者数と人員の適正配置のバランスが取れていない | <ul style="list-style-type: none">- 業務内容の見直しの検討 |

Ⅷ 大藤診療所の目指す姿・期待される役割

1 目指す姿

甲州市大藤診療所は下記3項目の機能整備を目指す。

- (1) 医療・介護の連携拠点 : 高齢化が進む大藤・玉宮・神金地区のなかで医療(在宅)・介護の拠点として住民・医療施設・介護施設・行政を繋ぐ
- (2) 外来診療の継続 : 大藤で継続的に外来診療を提供する診療所
- (3) 在宅医療の推進 : 訪問診療・往診の継続と介護事業所との連携

2 期待される役割

目指す姿の実現のために、大藤診療所では次の役割を担う。

- (1) 地域の住民の医療・介護に関する相談窓口を担う。
- (2) 医療機関がない大藤・玉宮・神金地区の住民に、継続して総合的な医療(プライマリケア)を提供する。
- (3) 外来受診が困難な高齢者に対しての訪問診療や往診を継続する。
- (4) 地域入院が必要な患者に対して、必要に応じ市内外の病院(塩山市民病院、勝沼病院、山梨厚生病院等)と連携をし、適切な医療を提供する。

Ⅸ 大藤診療所の基本方針(重点取組)

(1) 相談窓口(地域連携)機能

- 地域住民からの医療・介護の相談窓口としての機能を強化
- 地域の健康相談や介護・在宅情報等の情報発信の強化

(2) 外来機能

- 大藤・玉宮・神金地区のかかりつけ医機能を維持
- 診療日数の見直し

→2021(令和3)年度以降に外来患者数が2016(平成28)年度程度まで戻らない場合
診療日数の集約化や訪問診療への切替も検討する

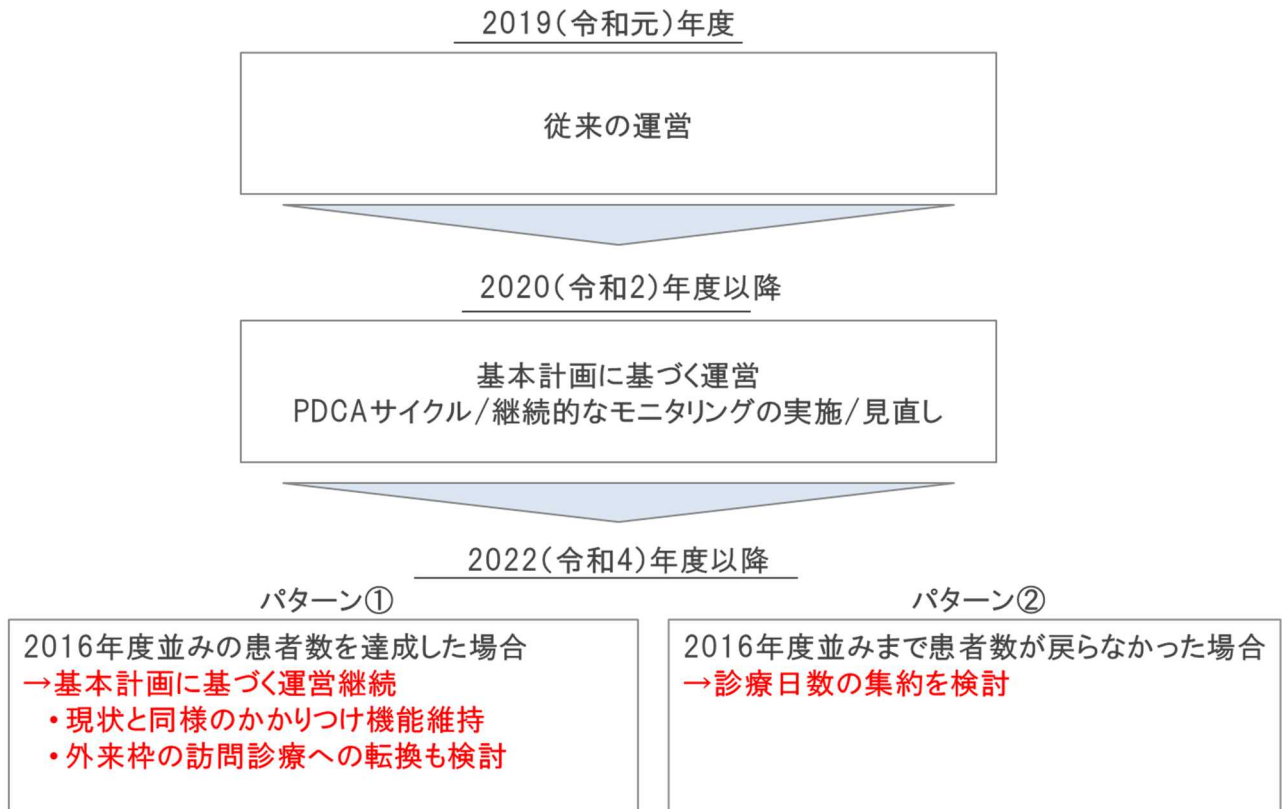
(3) 在宅医療機能

- 今後ニーズが増加すると想定される訪問診療の継続
- 近隣の在宅診療を行っている診療所と勝沼病院の在宅医療の取組との連携
- 山梨市立牧丘病院との連携方法の検討

X 大藤診療所の中長期的な方向性

大藤診療所は基本方針に沿って大藤・玉宮・神金地区の中で介護との連携を図りながら取組を継続する。

今後、医療環境の変化や地域の受療動向の変化が見込まれるため、甲州市では毎年度PDCAサイクルによる継続的なモニタリングを実施し、必要に応じて医療機能や運営形態の見直しを行う。



XI 参考資料

甲州市附属機関の設置に関する条例(抄)

(附属機関の設置及び所掌事務)

第2条 市長の附属機関として、次に掲げる機関を設置する。

(略)

甲州市地域医療体制審議会

(略)

別表(第2条、第3条関係)

1 市長の附属機関

| 附属機関 | 所掌事務 | 委員の定数 | 委員の要件 | 委員の任期 |
|--------------|--|-------|---|-------|
| (略) | | | | |
| 甲州市地域医療体制審議会 | 市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。 (1) 医療体制整備における基本計画の策定及び推進に関する事項 (2) 甲州市の医療政策に関する事項 | 15人以内 | (1) 学識経験を有する者 (2) 関係機関、団体等の代表者 (3) 前2号に掲げる者のほか、市長が適当と認める者 | 2年 |
| (略) | | | | |

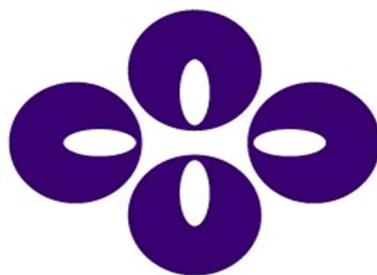
令和元年度 甲州市地域医療体制審議会委員名簿

(敬称略・順不同)

| 選出区分 | 役 職 名 | 氏 名 | 備考 |
|---------------|------------------------------------|--------|-----|
| 医療を提供する立場にある者 | 甲州市医師会長 | 鶴田 幸一郎 | 副会長 |
| | 甲州市歯科医師会長 | 筒井 治彦 | |
| | 甲州市薬剤師会長 | 田邊 有久 | |
| | 山梨厚生会理事長 | 有泉 憲史 | |
| | 大藤診療所長 | 田中 千絵 | |
| | 山梨県訪問看護ステーション連絡協議会 峡東地区連絡会甲州市代表 | 松本 令子 | |
| 医療を受ける立場にある者 | 甲州市区長会長 | 小林 一三 | |
| | 甲州市区長会副会長 | 坂本 士郎 | |
| | 甲州市区長会副会長 | 伊藤 和良 | |
| | 甲州市母子相談員連絡協議会長 | 吉富 久子 | |
| 福祉介護関係者 | 甲州市社会福祉協議会長 甲州市国民健康保険運営協議会長 | 中村 功 | 会長 |
| | 甲州市介護保険運営協議会長 | 鶴田 甲敬 | |
| 学識経験者 | 塩山消防署長 | 内田 武寿 | |
| | 峡東保健所長 | 藤井 充 | |

審議会開催状況

| 回 | 開催日 | 検討内容 |
|-----|-----------------|-------------------------|
| 第1回 | 令和元年 10 月 9 日 | 甲州市における医療の現状と課題 |
| 第2回 | 令和元年 11 月 12 日 | 医療機能についての意見交換会 |
| 第3回 | 令和元年 12 月 9 日 | 勝沼病院、大藤診療所の現状と課題と方向性 |
| 第4回 | 令和 2 年 1 月 14 日 | 具体的取組とスケジュール、基本計画(案)の検討 |
| 第5回 | 令和 2 年 2 月 5 日 | 基本計画の策定 |



甲州市地域医療体制基本計画
2020年度～2024年度

発行年月／2020(令和2)年2月

発行／甲州市健康増進課

〒404-8501 山梨県甲州市塩山上於曾1085番地1

TEL0553-32-5014